

マイスター・ハイスクール事業、マイスター・ハイスクール普及促進事業 事業実施校における産学連携に関する実態調査、 及び成果検証

（マイスター事業アンケート調査（2. 分析））

株式会社内田洋行 教育総合研究所

- 調査概要
- 結果
 - 分析
 - 全国値との比較
 - 相関分析(成果検証)
 - アンケート内分析
 - アンケート間分析(学校用アンケートとの紐づけ)
 - 補足的成果検証(生徒の自由記述整理)
 - リサーチクエスチョンに基づく分析
- 付録
 - 質問項目一覧

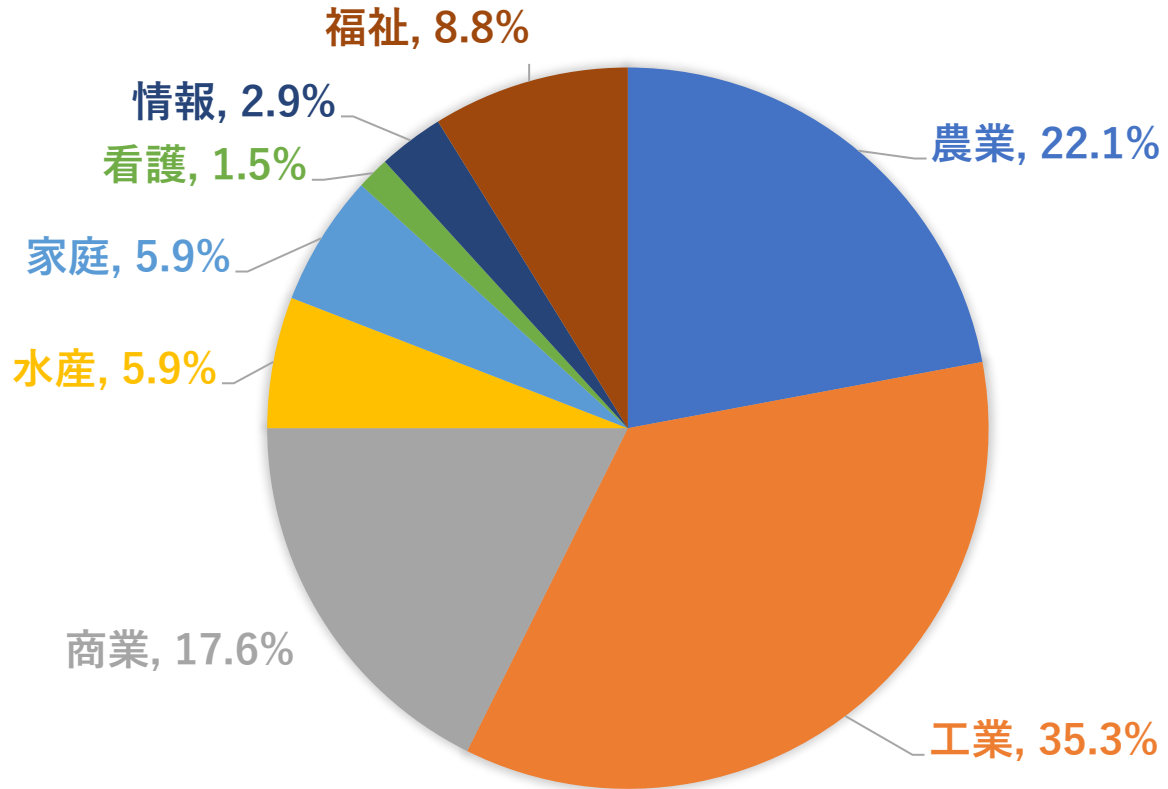
調査概要

項目	内容
目的	当事業における専門高校と産業界等の連携について、取組内容や体制等の実態を把握するとともに、産学連携および事業の成果を把握する。
対象	マイスター・ハイスクール事業、マイスター・ハイスクール普及促進事業の事業実施校(学校・生徒・教員)、産業界、自治体 ※自治体には管理機関と基礎自治体を含む
方法	Webアンケート調査
期間	2024/12/10～2025/02/05
回答データ数	学校 52校(1校1人) 生徒 7586人(1年生 2434人、2年生 2839人、3年生 2313人) 教員 553人 産業界 57人 自治体 26人(管理機関 15人、管理機関以外 11人)

アンケート回答校(計52校・計68大学科) 大学科内訳

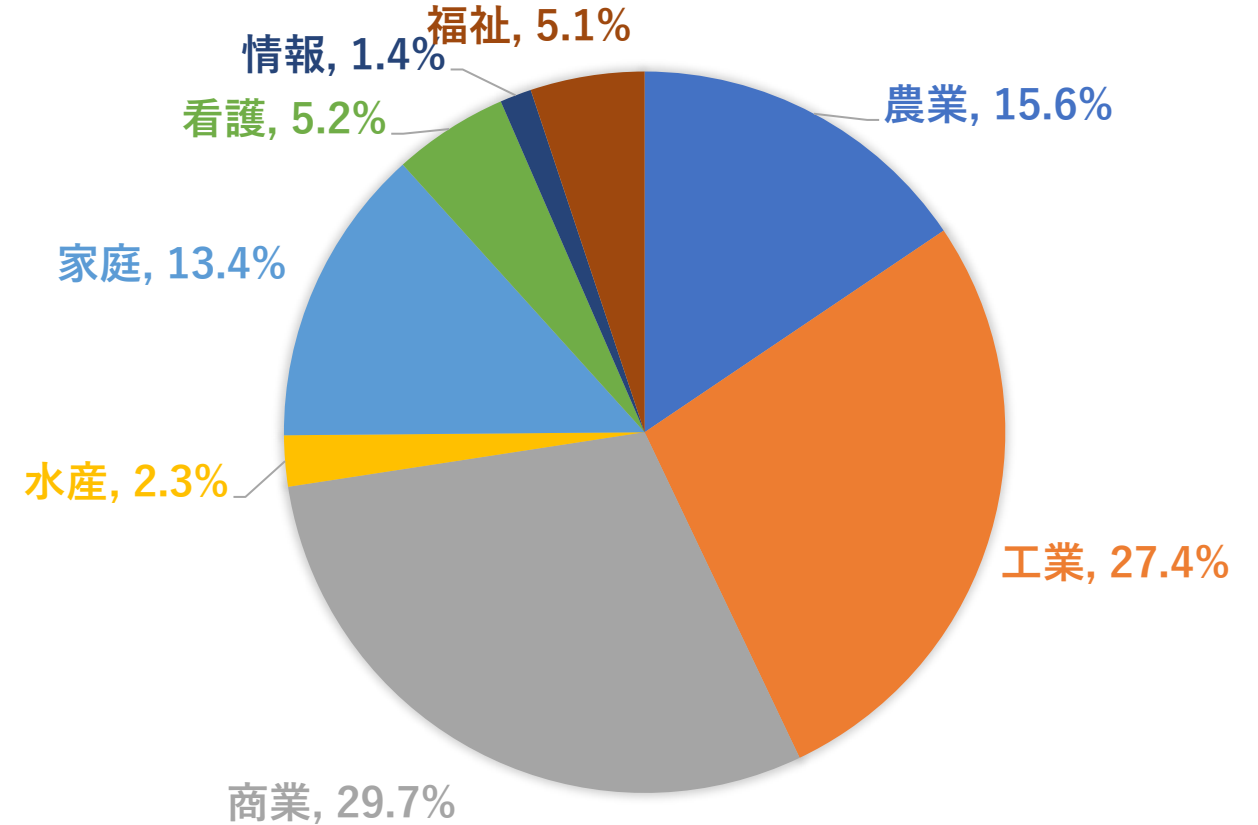
UCHIDA

マイスター・ハイスクール事業参画校(計68大学科)



※これに加え、総合学科1学科、普通科2学科が参画。

参考:全国(計1838大学科)



※参考文献:学校基本調査(令和6年度)

(うち、高等学校学科数(全日制(または全定併設)専門高校数)の情報)

[学校基本調査 令和6年度 初等中等教育機関・専修学校・各種学校 学校調査・学校通信教育調査\(高等学校\) 学校調査票\(高等学校 全日制・定時制\) | ファイル | 統計データを探す | 政府統計の総合窓口](#)

質問項目一覧(学校用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。



ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	フェイスシート	学校名	貴校の学校名を教えてください。
q2		担当者の属性	貴校で産学連携の取組の計画に関わっている方について、当てはまるものをすべて選択してください。
q3		産学連携歴	貴校では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？
q4	産学連携を行う目的	産学連携の目的	貴校が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。
q5	具体的な取組	産学連携の取組種別	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q6	協働体制	産学連携に関わる企業・団体数	今年度実施した産学連携に関わっている企業や団体等の数を教えてください。※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q7		産学連携に関わる団体種別	今年度の産学連携に関わった企業や団体等の種類を全て選択してください。
q8		産学連携に関わる団体の属性	連携している企業・団体等について、当てはまるものを全て選択して下さい。
q9		産業界との連携パターン	企業や団体等とどのような形で連携していますか？あてはまるものを全て選択してください。
q10	産学連携の成果	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴校の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
q11		産学連携の効果	産学連携の取組を通じて、貴校として実感しているメリットを教えてください。
q12	協働体制	取組の検討主体	産学連携の取組は、主にどの組織が中心となって検討を進めていますか。
q13	全般	産学連携に関する課題	産学連携において、貴学科が抱えている課題があれば教えてください。
q14	自治体の支援体制	基礎自治体との連携の深さ	学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか。
q15	産学連携の予算とその獲得	基礎自治体からの資源提供	学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(寮の整備など場所の提供も含む)等を受けていますか。
q16	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先の理解1	連携している企業等の産学連携の目的を十分に理解している
q17		連携先の理解2	企業等と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている
q18		連携先からの理解	貴校の産学連携の目的は、連携先の企業等に十分伝わっている。
q19		課題感の反映	現在の取組は、学校と企業の課題を踏まえた内容になっている。
q20		共通ビジョンの検討	学校と企業の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。
q21		企業の貢献度	産学連携と一緒に取り組んでいる企業は、活動において企業としての役割を十分に果たしていると感じますか
q22		継続性(学校側)	貴校の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q23		継続性(連携先側)	産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q24	取組の実施プロセス	産業界との連携の必要性検討	学校の中で、産業界との連携の必要性を検討する機会
q25		課題の産業界への共有	学校が抱える課題を産業界に伝える機会
q26		産業界の目的や必要性の理解	産業界側の産学連携の目的や連携の必要性について知る機会
q27		学校と産業界の議論の場1	学校と産業界が対等な立場で議論する機会
q28		学校と産業界の議論の場2	学校と産業界が協力して、学校のカリキュラムを検討・改善する機会

質問項目一覧(生徒用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

UCHIDA

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	フェイスシート	学校名	学校名を教えてください。
q2		学科	学科を選んでください。
q3		学年	学年を選んでください。
q4	具体的な取組	産学連携の取組頻度(授業・実習)	今年度、学校での授業や実習の中で、企業や地域の人が講義をしたり、手伝ったりしたことは、どれぐらいありましたか。
q5		産学連携の取組頻度(学校行事・イベント)	今年度、学校行事やイベント(授業や実習以外)で、企業や地域の人と話をしたり一緒に活動したりしたことは、どれぐらいありましたか。
q6		産学連携の経験(課題研究やグループワーク)	今年度、企業や地域の人に関わっている課題研究やグループワークに参加した経験はありますか。
q7		産学連携の経験(企業見学・インターンシップ等)	今年度、企業や地域の施設を訪問する活動(見学やインターンシップなど)に参加した経験はありますか。
q8	産学連携の成果	知識・技術を学ぶ意欲	授業で学んでいる知識や技術について、もっと知りたいと思う。
q9		知識・技術の理解	仕事や社会の中で使われている知識や技術について、理解していると思う。
q10		知識・技術の活用意欲	仕事や社会で使われている知識や技術を、普段の生活の中で役立てたいと思う。
q11		知識・技術と実社会の関連付け	仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業がなぜ大切か分かった。
q12		知識・技術とキャリアの関連付け	企業や地域の人から学ぶことは、将来の進路を考えるのに役立つと思う。
q13		地元企業の理解	地域の企業や産業について、進路を考えるための情報を十分に知ることができた。
q14		地元就職への意欲	地元の企業に就職したいと思う(進学する場合は卒業後に)。
q15		地元貢献への意欲	地元の発展に貢献したいと思う。
q16		将来の目標	将来の目標を考え、それを実現するために努力している。
q17		将来の展望	将来に対して希望を持っている。
q18		主体性	やるべきことに対して、積極的に取り組むことができる。
q19		働きかけ力	目標を達成するために、周りの人の力を借りながら取り組むことができる。
q20		実行力	失敗を恐れず、行動に移すことができる。
q21		課題発見力	目標を達成するために、解決すべき問題を見つけることができる。
q22		計画力	何かの課題に取り組むとき、必要な手順について優先順位を決められる。
q23		創造力	何かの課題に取り組むとき、解決策の選択肢をいくつか挙げて検討することができる。
q24		発信力	話し相手に対して、自分の意見を分かりやすく伝えることができる。
q25		傾聴力	話し相手の意見や主張を正確に聞き取ることができる。
q26		柔軟性	相手の立場や意見を尊重することができる。
q27		状況把握力	グループで活動するとき、何をすればよいか、自分の役割を理解できる。
q28		規律性	集団や社会生活の規則やルールを守ることができる。
q29		ストレスコントロール力	困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組もうとすることができる。
q30		授業や実習等において感じたこと	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等について、どのように感じていますか。(印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)

質問項目一覧(教員用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

UCHIDA

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	フェイスシート	学校名	学校名を教えてください
q2		職務	あなたの職名を教えてください。
q3		担当学科	あなたが授業を担当している学科(大学科)を教えてください。
q4	年間を通した取組プロセス	産学連携の必要性の理解	学校が産学連携に取り組む必要性を、あなたは十分に理解していると思いますか。
q5		学校目標との整合性	産学連携の取組が、学校の目標に合っていると思いますか。
q6	産学連携の成果	(生徒評価)思考力・判断力・表現力1	生徒は、課題に対して粘り強く考えることができる。
q7		(生徒評価)思考力・判断力・表現力2	生徒は、課題に対して他者と協力することができる。
q8		(生徒評価)思考力・判断力・表現力3	生徒は、自分の意見や考えを分かりやすく伝えることができる。
q9		(生徒評価)知識・技術を学ぶ意欲	生徒は、授業で学んでいる知識や技術に興味を持っている。
q10		(生徒評価)知識・技術の理解	生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術について理解している。
q11		(生徒評価)知識・技術の活用意欲	生徒は、普段の生活の中で、仕事や社会で使われている知識や技術を役立てたいと思っている。
q12		(生徒評価)知識・技術と実社会の関連付け	生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業の大切さを理解している。
q13		(生徒評価)知識・技術とキャリアの関連付け	生徒は、企業や地域の人から学ぶことが、将来の進路を考えるのに役立つと思っている。
q14		(生徒評価)地元企業の理解	生徒は、地域の企業や産業について、進路を考えるための十分な情報を得ている。
q15		(生徒評価)地元就職への意欲1	生徒は、地元の企業への就職(進学する場合は卒業後に)について前向きに考えている。
q16		(生徒評価)地元貢献への意欲2	生徒は、地元への貢献意識が高い傾向にある。
q17		学習機会の提供	生徒には、地域の課題に直接触れる機会がある。
q18		地域産業・企業への理解	地域の産業や企業について理解している。
q19		関心に合った学習機会の提供	生徒の関心に合った学習の機会を提供できている。
q20	フェイスシート	産学連携への関与状況	今年度、マイスター・ハイスクール事業にどのように関わっていますか？ あなたの関わり方について教えてください。
q21	産学連携の成果	目指す生徒像の再考	産業界や地域社会との連携が、学校として目指す生徒像を再考するきっかけになった。
q22		専門性の向上	産業界や地域社会との連携により、自身の専門性や指導力が高まった。
q23		地元産業の理解	産業界や地域社会との連携により、地域を支える産業や職業について、進路指導を行うに十分な理解が深まった。
q24		指導方法・カリキュラム改善	産業界や地域社会との連携により、授業の指導方法やカリキュラムを改善する必要性を感じた。
q25		生徒に必要な資質能力の検討	生徒に必要な資質や能力について、産業界や地域社会と対話しながら決定するようになった。
q26		授業・単元計画の検討	産業界や地域社会と連携して、授業や単元の計画を検討するようになった。
q27		学びの評価に基づく改善	産業界や地域社会と協働して取り組んだ学びの評価を共有し、それを基に改善に取り組んだ。
q28		創造的で効率的な教育活動の実施	産業界や地域社会との連携により、創造的で効率的な教育活動が展開された。
q29		学校の魅力化・教育活動の活性化	産業界や地域社会との連携が、学校の魅力向上や教育活動の活性化につながった。
q30	校内体制における成果	校内の組織化	学校内で組織化が図られたことにより、産業界や地域社会との連携に前向きに取り組めた。
q31		学校外の相談先の存在	相談できる学校外の関係機関やコーディネーターがいることで、産業界や地域社会と連携しやすくなった。
q32	校内体制	教員の心理的安全性の確保	管理職として、産学連携において、担当者が産業界に自由に意見を述べたり、活動したりできる環境を整えることを心がけた。
q33		教員の心理的安全性の状況	事業担当者として、産学連携において、産業界側の担当者に対して自由に意見を述べたり、活動したりできた。

質問項目一覧(産業界用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	フェイスシート	団体名	貴団体名を教えてください。
q2		担当者の属性	このアンケートに回答している方の職務を教えてください。当てはまるものを選択してください。
q3		対象高校名	貴団体が連携している高等学校の名称を教えてください。
q4		産学連携歴	貴団体では、いつから産学連携の取組を実施していますか？
q5	産学連携を行う目的	産学連携の目的	貴団体が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。
q6		産学連携目的の重要性	前の質問で選んだ目的について、どのくらい重要だと考えていますか。
q7	産学連携の成果	産学連携による企業・団体目標やビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴団体の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか。
q8		産学連携の効果	産学連携の取組を通じて、貴団体として実感しているメリットを全て選択してください。
q9		採用活動のしやすさ	学校が産学連携に取り組むようになったことで、学校に対する採用活動がやりやすくなったと思いますか。
q10		産学連携の継続意欲	今後も産学連携の取組を続けたいと考えていますか。
q11		産学連携意義・必要性の認識	あなたは、産業界と学校との連携の意義や必要性をどの程度感じていますか。
q12		担当者の意識や行動の変化	学校教育に関わったことによって、担当者の意識や行動になにか変化はありましたか。当てはまる項目を全て選択してください。
q13	学校と産業界の関係構築プロセス	互惠関係の成立	貴団体は、連携している学校と、互いに利益を得られる関係(互惠関係)にあると思いますか？最も当てはまるものを選択してください。
q14		連携意義・必要性の認識	連携している学校の産学連携の目的を十分に理解している
q15		連携先への理解	学校と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている
q16		連携先からの理解	貴団体としての産学連携の目的が、連携先の学校に十分伝わっている
q17		良好な関係性	産学連携の取組内容について、学校に対して積極的に提案している。
q18		課題感の反映	現在の取組は、学校と企業・団体の双方の課題を踏まえた内容になっている。
q19		双方の課題を踏まえたビジョン協議	学校と企業・団体の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。
q20		適切な役割分担	産学連携の取組を進める中で、貴団体が担う役割は適切だと思う。
q21		継続性(企業・団体側)	貴団体の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q22		継続性(学校側)	学校側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。

質問項目一覧(自治体用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

UCHIDA

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	フェイスシート	自治体名	貴自治体名を教えてください。
q2		部署名	貴自治体において、学校の産学連携を主に担当している部署名を教えてください。
q3		対象高校名	貴自治体が連携している高等学校の名称を教えてください。
q4		産学連携歴	貴自治体は、対象の学校と企業などが連携して行う教育活動(産学連携)に、いつから関わっていますか。
q5	産学連携を行う目的	産学連携の目的	貴自治体が産学連携に取り組む最も大きな理由を1つ選択してください。
q6		産学連携目的の重要性	前の質問で挙げた目的について、どのくらい重要だと考えていますか。
q7	産学連携の成果	産学連携の自治体目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴自治体の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
q8		産学連携の効果	産学連携の取組を通じて、貴自治体として実感しているメリットを教えてください。
q9		産学連携の継続意欲	今後も産学連携の取組を続けたいと考えていますか。
q10		産学連携意義・必要性の認識	あなたは、産業界と学校との連携の意義や必要性をどの程度感じていますか。
q11		議会等からの理解	学校の産学連携を支援した結果、貴自治体の首長や議会等において、産学連携への理解は高まりましたか。
q12	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先(学校)からの理解	貴自治体としての産学連携の目的が、連携先の学校に十分伝わっている
q13		連携先(学校)への理解	学校としての産学連携の目的を十分に理解している
q14		連携先(産業界)への理解	産業界としての産学連携の目的を十分に理解している
q15		連携先(産学)への理解	学校と産業界が連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている
q16		学校への積極提案	産学連携の取組内容について、学校に対して積極的に提案している。
q17		課題感の反映	現在の取組は、学校・産業界・自治体、それぞれの課題を踏まえた内容になっている。
q18		共通ビジョンの検討	学校と産業界、自治体の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。
q19		適切な役割分担	産学連携の取組を進める中で、貴自治体が担う役割は適切だと思う。
q20		継続性(自治体側)	貴自治体の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q21		継続性(連携先側)	学校や産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。

参考：質問項目一覧(全国アンケート)

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	全般	産学連携の深さ	貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。
q2		産学連携の深さ 補足	貴学科が、産学連携を実施していない理由を教えてください。
q3		産学連携の深さ 補足	貴学科で、産学連携を教育課程の一環として組み込んでいない理由を教えてください。
q4		産学連携歴	貴学科では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？
q5		きっかけ	産学連携に取り組んだきっかけを教えてください
q6	産学連携の取組	目的	貴学科が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。
q7		取組内容	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q8	産学連携を持続的に推進するための体制の在り方	産学連携に関わる企業・団体数	今年度実施した産学連携に関わっている企業や団体等の数を教えてください。※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q9		連携先企業・団体	今年度の産学連携に関わった企業や団体等の種類を全て選択してください。
q10		連携先企業・団体	連携している企業・団体等について、当てはまるものを全て選択して下さい。
q11		連携先企業・団体	企業や団体等とどのような形で連携していますか？あてはまるものを全て選択してください。
q12	産学連携の取組	産学連携の学科目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
q13		連携の効果	産学連携の取組を通じて、貴学科として実感しているメリットを教えてください。
q14	取組の実施プロセス	取組の検討主体	産学連携の取組は、主にどの組織が中心となって検討を進めていますか。
q15	取組や体制の在り方に大きく影響を与える要素	産学関係の深まり	貴学科が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。 ※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。 ①一方のニーズに応えている関係 主に、学校や企業・団体等のどちらか一方のニーズに基づいて活動が行われている段階。 企業等側の課題やニーズを十分に理解できていない。 ②協力しあっている関係 学校と企業・団体等が互いに理解を深めながら、協力して活動している段階。 協力できる分野や活動についてある程度の共通認識があるが、活動内容はどちらか一方のニーズが優先されやすい。 ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 学校と企業・団体等がそれぞれの課題や目指す方向を共有し、共通の目的やビジョンを持って活動を行っている。 学校と企業等との関係は互恵的で、双方が取組から恩恵を受けている。 ④安定して取組を継続していける関係 学校と企業・団体等の間で、長期的で安定した協働関係が確立されている。 共通の目的やビジョンが明確に共有され、計画から実施、評価まで一貫したプロセスに基づいて行われている。 担当者が変わっても、信頼関係や取組が維持できる体制が整っている。
q16	全般	課題	産学連携において、貴学科が抱えている課題があれば教えてください。
q17	産学連携を持続的に推進するための体制の在り方	調整業務	貴学科では、企業や団体等との調整業務を誰が担っていますか。当てはまるものをすべて選択してください。
q18		調整業務	調整業務を担う専門人材(コーディネーター等)の配置にかかる費用は、どの組織が負担していますか。 当てはまるものを全て選択してください。
q19		基礎自治体との連携の深さ	学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか。
q20		基礎自治体からの資源提供	学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(寮の整備など場所の提供も含む)等を受けていますか。

結果(全国値との比較)

- 当事業における、**産学連携の体制や取組の質等の改善**について把握するため、**学校用アンケートの集計値(n=52)と全国の専門高校の集計値(n=338)を比較した。**
 - データ引用元
 - 文部科学省（2025）専門高校における産学連携に関する実態調査(全国専門高校アンケート調査)
 - 文部科学省（2025）マイスター・ハイスクール事業、マイスター・ハイスクール普及促進事業
事業実施校における産学連携に関する実態調査、及び成果検証(マイスター事業アンケート調査（1.単純集計）)

「専門高校における産学連携に関する実態調査(全国専門高校アンケート調査)」と共通した
学校用アンケート項目(計13/28項目)

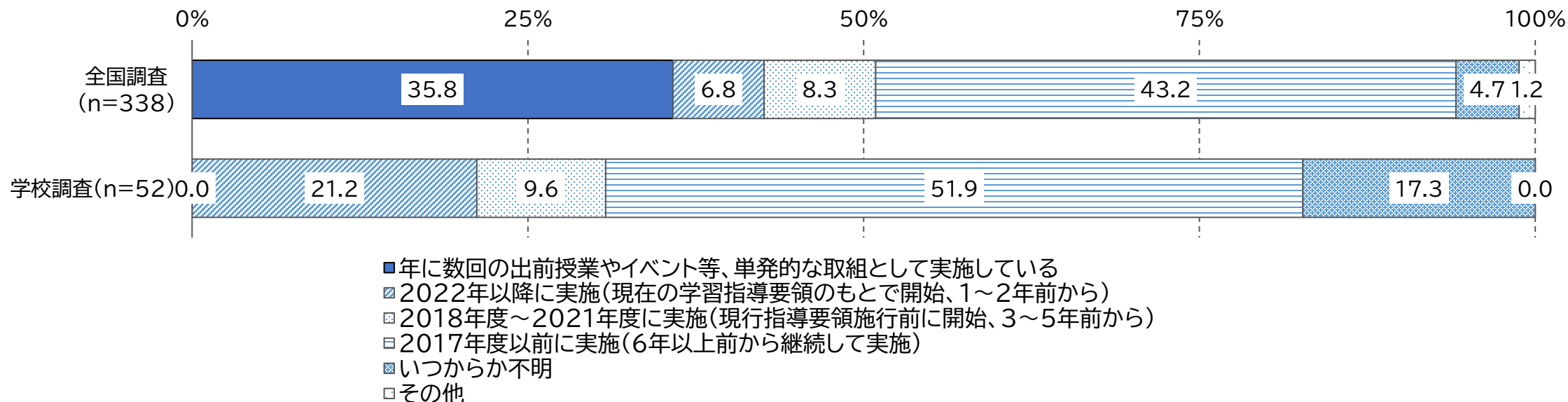
ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q3	フェイスシート	産学連携歴	貴校では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？
q4	産学連携を行う目的	産学連携の目的	貴校が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。
q5	具体的な取組	産学連携の取組種別	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q6		産学連携に関わる企業・団体数	今年度実施した産学連携に関わっている企業や団体等の数を教えてください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q7	協働体制	産学連携に関わる団体種別	今年度の産学連携に関わった企業や団体等の種類を全て選択してください。
q8		産学連携に関わる団体の属性	連携している企業・団体等について、当てはまるものを全て選択して下さい。
q9		産業界との連携パターン	企業や団体等とどのような形で連携していますか？あてはまるものを全て選択してください。
q10	産学連携の成果	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴校の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
q11		産学連携の効果	産学連携の取組を通じて、貴校として実感しているメリットを教えてください。
q12	協働体制	取組の検討主体	産学連携の取組は、主にどの組織が中心となって検討を進めていますか。
q13	全般	産学連携に関する課題	産学連携において、貴学科が抱えている課題があれば教えてください。
q14	自治体の支援体制	基礎自治体との連携の深さ	学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか。
q15	産学連携の予算とその獲得	基礎自治体からの資源提供	学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(寮の整備など場所の提供も含む)等を受けていますか。

参考)回答者内訳

※産学連携を教育課程の一環として継続的に組み込み始めた時期(全国Q4、学校Q3)を改変

- 前提として、全国アンケートについては、回答者の35.8%は「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施して」おらず、「年に数回の出前授業やイベント等、単発的な取組として実施している」学科である。
(学校用アンケートについては、すべての回答者が「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している」)
- また、産学連携を教育課程の一環として継続的に組み込み始めた時期は2群間で異なる。

貴学科では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？(単一選択式)



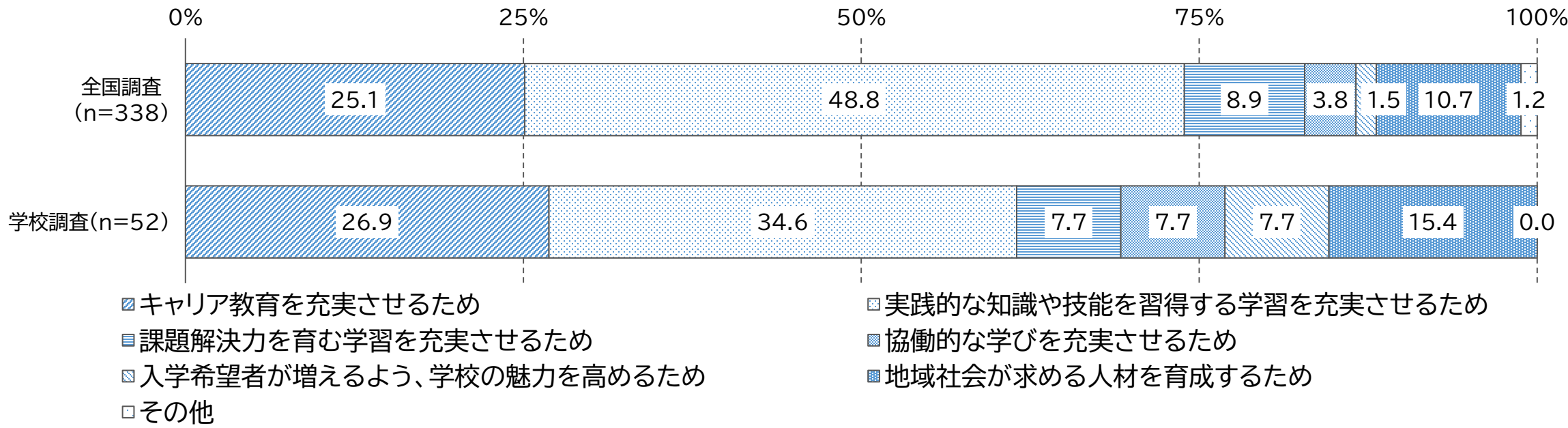
※なお、実態として、全国調査では371大学科が回答したが、うち33大学科(8.9%)が回答時点で産学連携の取組自体を行っていないかった。
これらの大学科は、次ページ以降の集計値には含まれていない。

参考)回答者内訳

※産学連携に取り組む最も大きな目的(全国Q6、学校Q4)

- 当事業参画校は全国と比較して、「入学希望が増えるよう、学校の魅力を高めるため」、「地域社会が求める人材を育成するため」、「協働的な学びを充実させるため」といったことを産学連携に期待している点が特徴的である。
(それぞれ全国値との差分が約+6.2%、4.7%、3.9%)

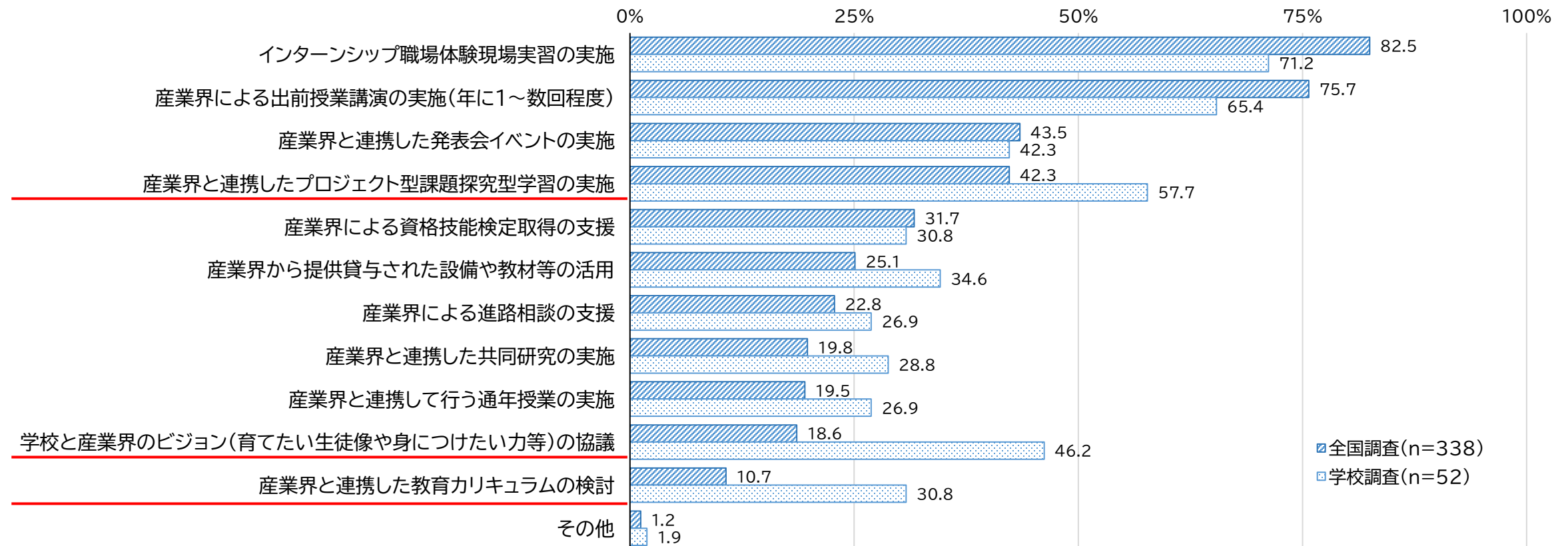
貴学科が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。(単一選択式)



産学連携の取組内容 (全国Q7、学校Q5)

- 当事業ではさまざまな取組が行われており、特に、「学校と産業界のビジョン(育てたい生徒像や身につけたい力等)の協議」や「産業界と連携した教育カリキュラムの検討」、「産業界と連携したプロジェクト型課題探究型学習の実施」等を実施している学校が多かった。
(それぞれ全国値との差分が約+27.6%、20.1%、15.4%)

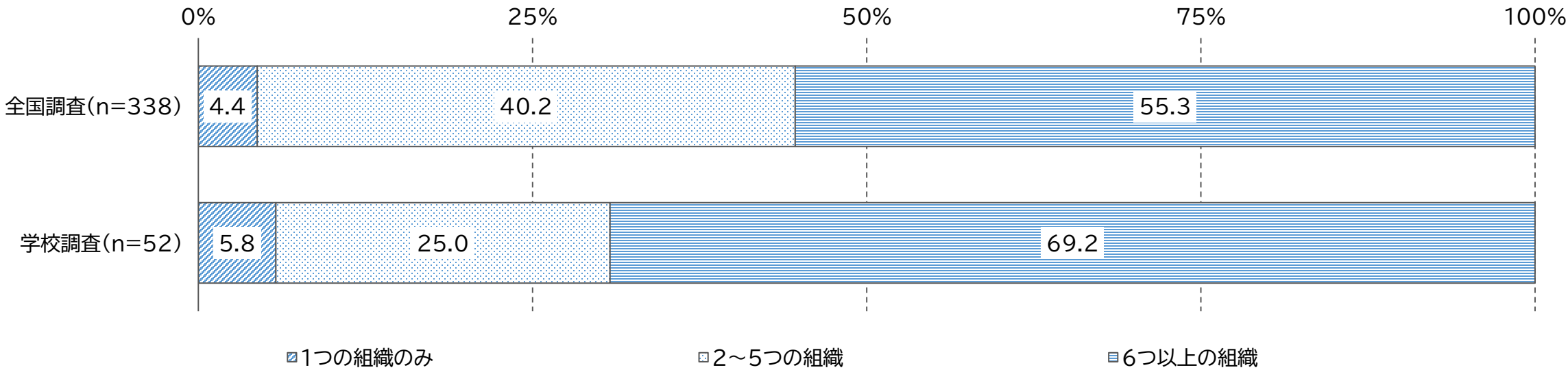
今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組内容を教えてください。(複数選択式)



産学連携に関わっている企業や団体等の数 (全国Q8、学校Q6)

- 当事業では連携先企業・団体数が豊富であり、6つ以上の組織と連携している学校が多かった。
(それぞれ全国値との差分が約+13.9%)

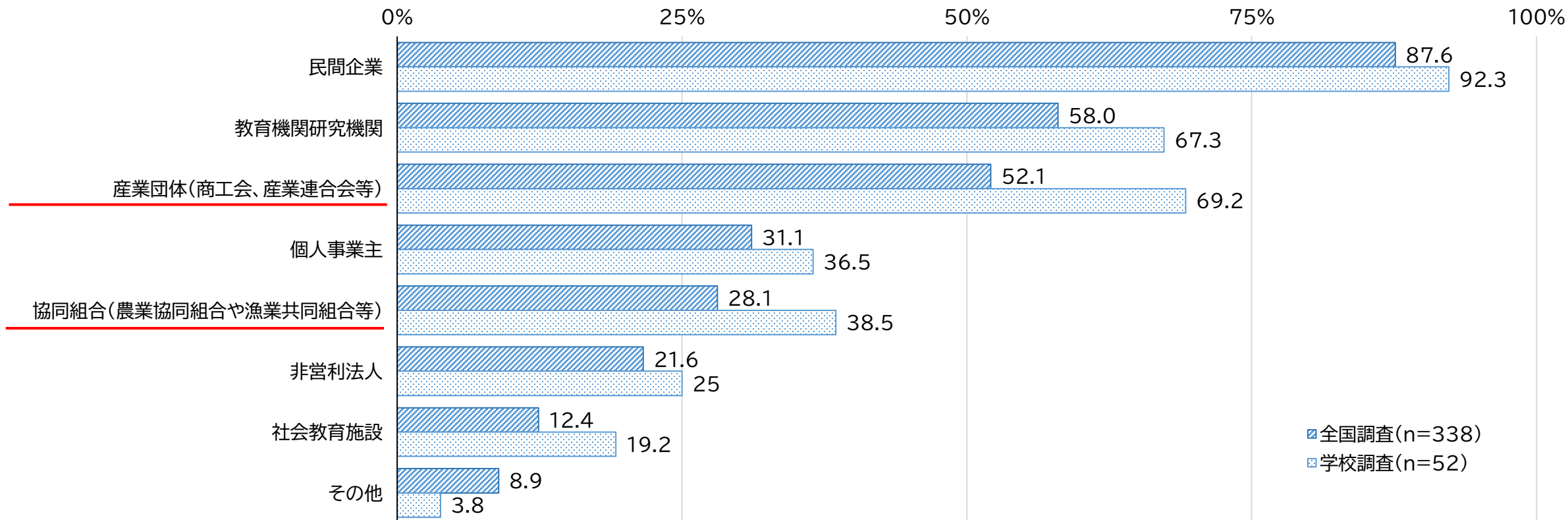
今年度実施した産学連携に関わっている企業や団体等の数を教えてください。(単一選択式)



産学連携に関わった企業や団体等の種類 (全国Q9、学校Q7)

- 当事業では、産業団体や協同組合と連携している学校が多かった。
(それぞれ全国値との差分が約+17.1%、10.4%)

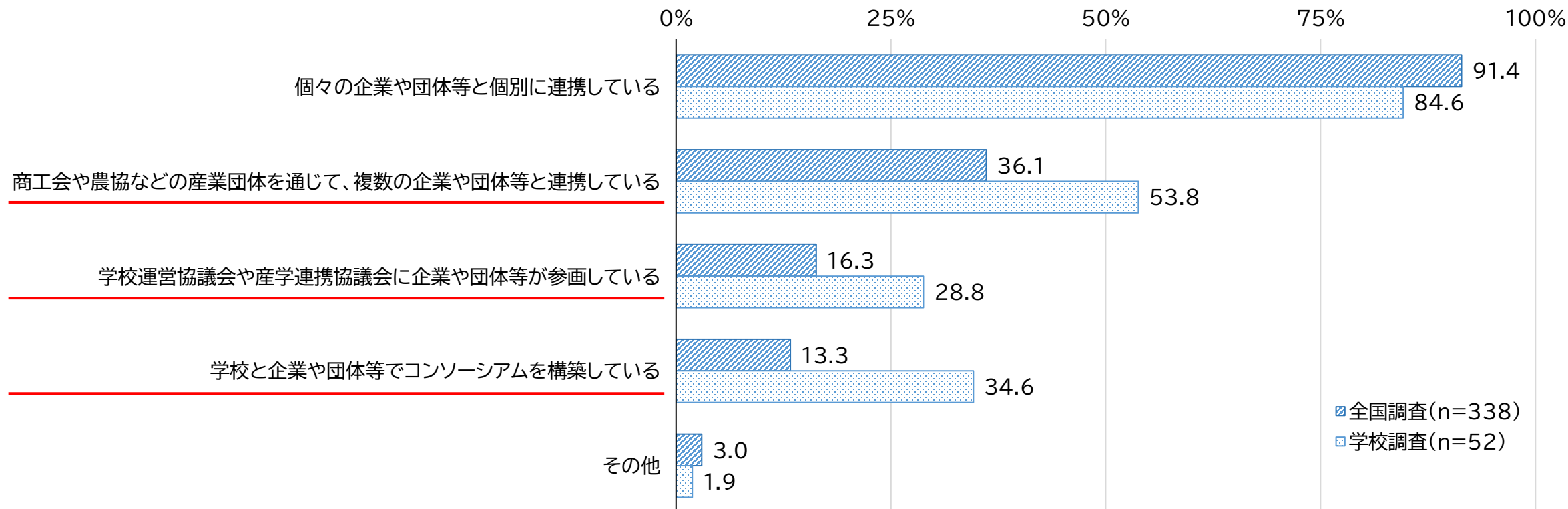
今年度の産学連携に関わった企業や団体等の種類を全て選択してください。(複数選択式)



企業や団体等との連携形態 (全国Q11、学校Q9)

- 前ページと関連して、当事業では、よりよい連携のために既存の組織を活用しているケースが多く、産業団体や協同組合と連携、それらを通じて企業・団体等と連携している学校が多かった。(全国値との差分が約+17.7%)
- また、コンソーシアム、学校運営協議会・産学連携協議会といった組織を活用している学校も多かった。(それぞれ全国値との差分が約+21.3%、12.5%)

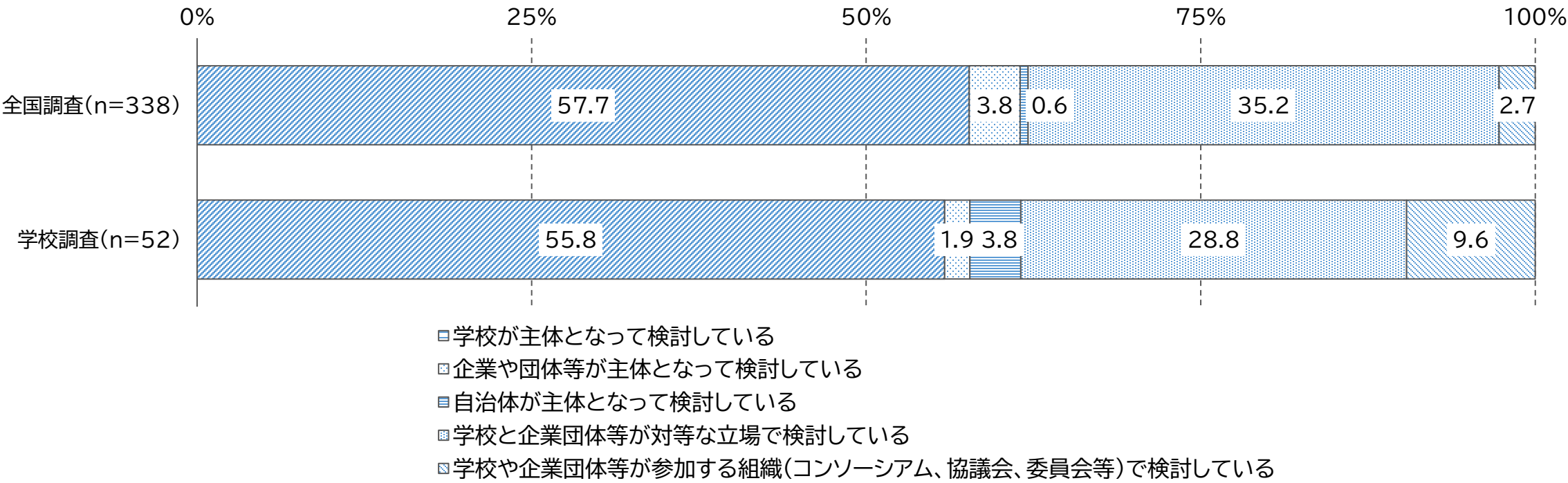
Q11.企業や団体等とどのような形で連携していますか？あてはまるものを全て選択してください。(n=338)(複数選択式)



産学連携の中心的組織 (全国Q14、学校Q12)

- 前ページと関連して、
当事業では、よりよい連携のために各組織が集う組織を活用しているケースが多く、
コンソーシアムや協議会、委員会等にて産学連携に関する検討を行っている学校が多かった。(全国値との差分が約+6.9%)

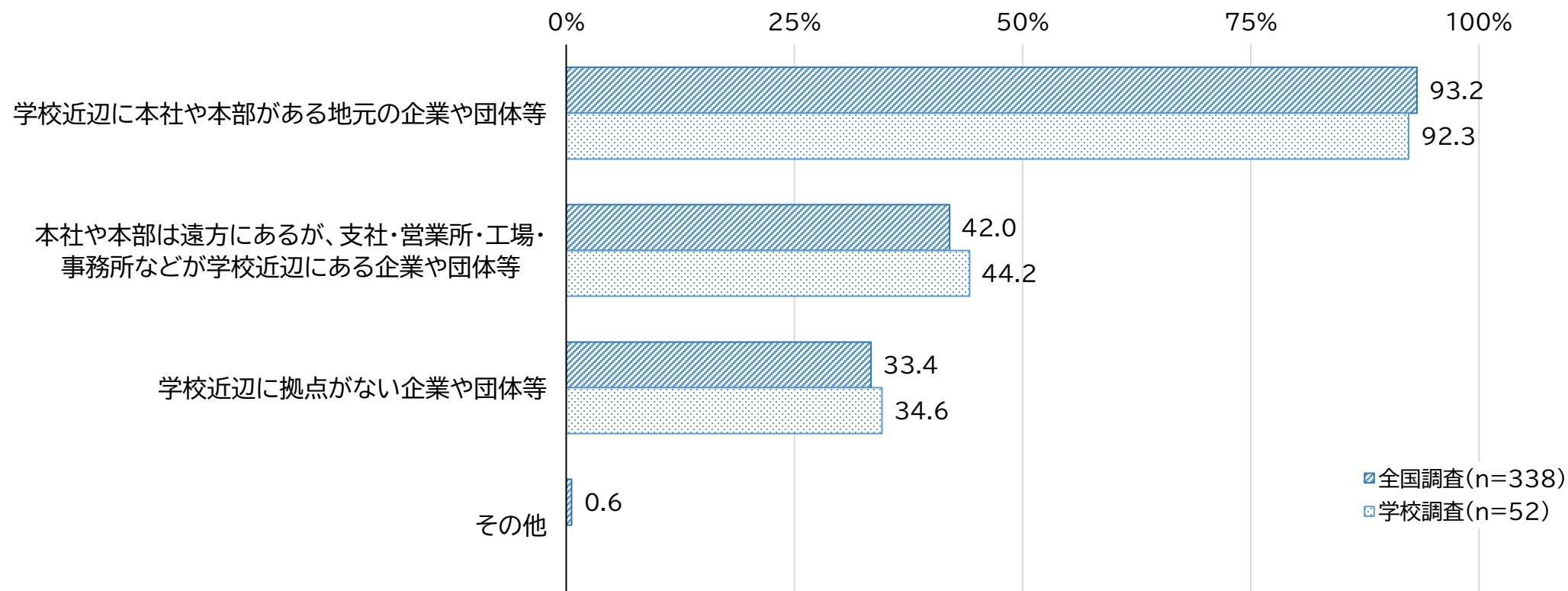
産学連携の取組は、主にどの組織が中心となって検討を進めていますか。(単一選択式)



連携している企業・団体等 (全国Q10、学校Q8)

- 連携している企業・団体の属性については、当事業は全国の専門高校とおおよそ同じ傾向であった。(差分約2.2%未満)

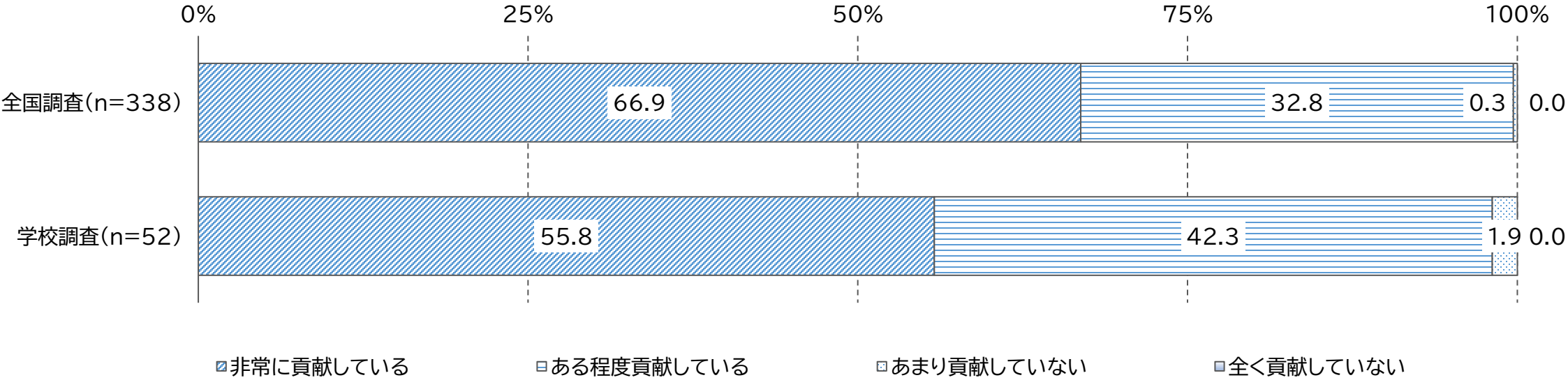
連携している企業・団体等について、当てはまるものを全て選択して下さい。(複数選択式)



産学連携の学科の目標やビジョンに対する貢献度 (全国Q12、学校Q10)

- 当事業では、産学連携が学科目標やビジョンに「非常に貢献している」と評価した学校が全国よりも少なかった。
 (全国値との差分が約-11.1%)

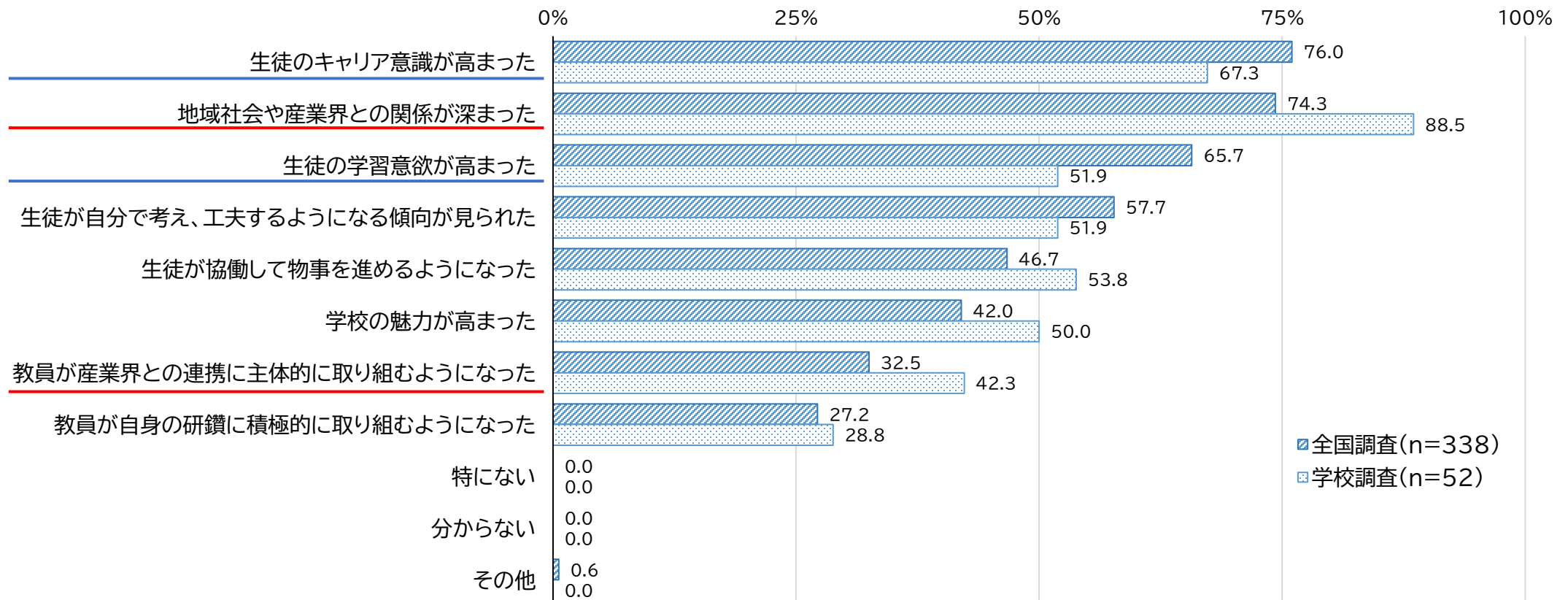
産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？(単一選択式)



産学連携を通じて実感しているメリット (全国Q13、学校Q11)

- 当事業では、産学連携の成果がみられ、「地域社会や産業界との関係が深まった」、「教員が産業界との連携に主体的に取り組むようになった」と評価した学校が多かった。
(それぞれ全国値との差分が約+14.2%、9.8%)
- 一方、「生徒の学習意欲が高まった」、「生徒のキャリア意識が高まった」と評価した学校は、それぞれ全国よりも13.8%、8.7%低かった。

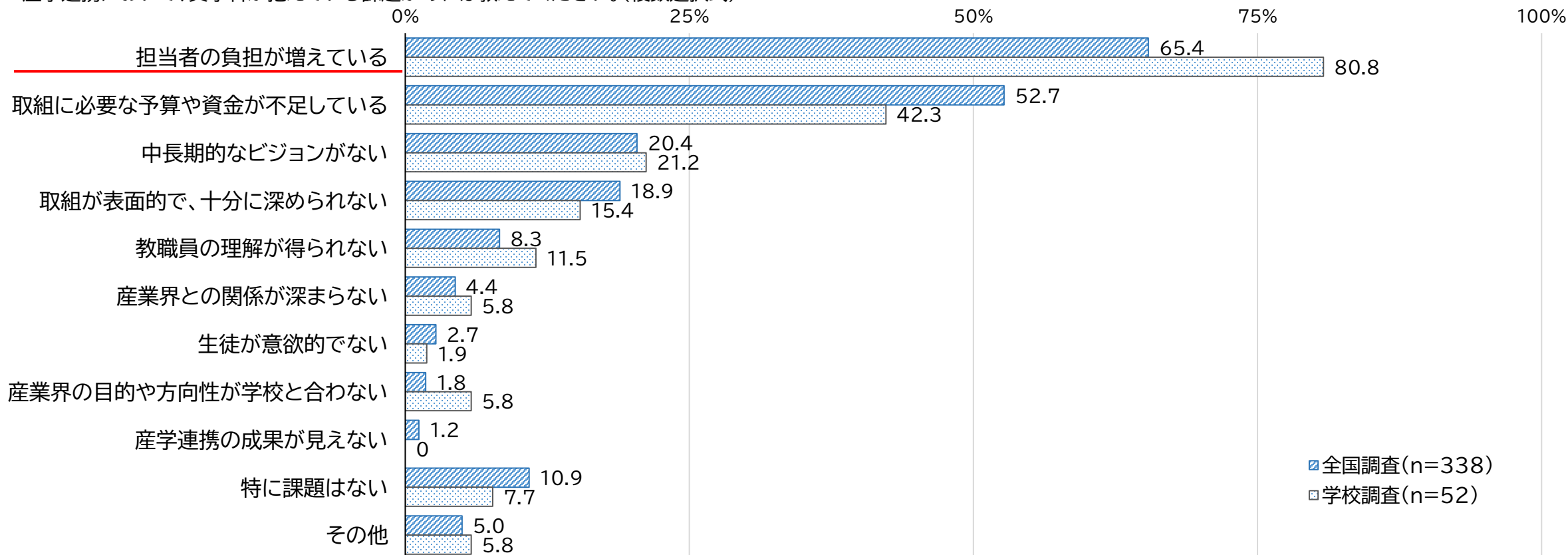
産学連携の取組を通じて、貴学科として実感しているメリットを教えてください。(複数選択式)



産学連携における課題 (全国Q16、学校Q13)

- 当事業では、担当者の負担が増加していると評価した学校が多かった。(全国値との差分が約+15.4%)
- 得られる示唆の例: 今後の方向性として、当事業を通じて多くの知見・ノウハウを得て、負担を抑えた産学連携が普及することが望ましい。

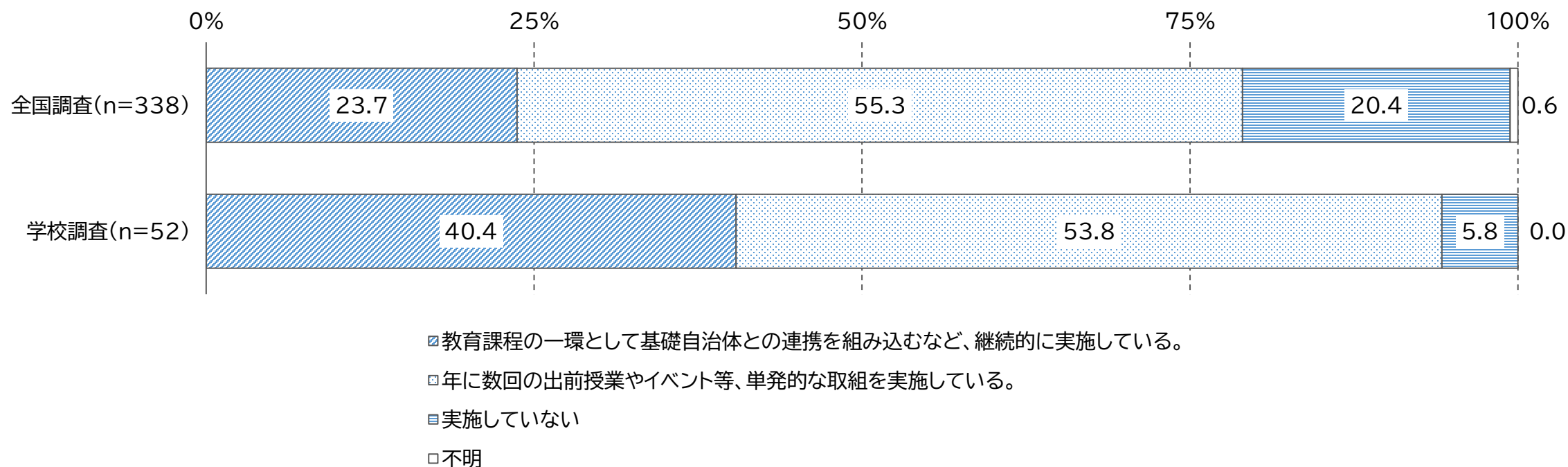
産学連携において、貴学科が抱えている課題があれば教えてください。(複数選択式)



基礎自治体と連携した取組の実施状況 (全国Q19、学校Q14)

- 当事業では、基礎自治体との連携がより強固であり、「教育課程の一環として基礎自治体との連携を組み込むなど、継続的に実施している」学校が多かった。
(全国値との差分が約+16.7%)

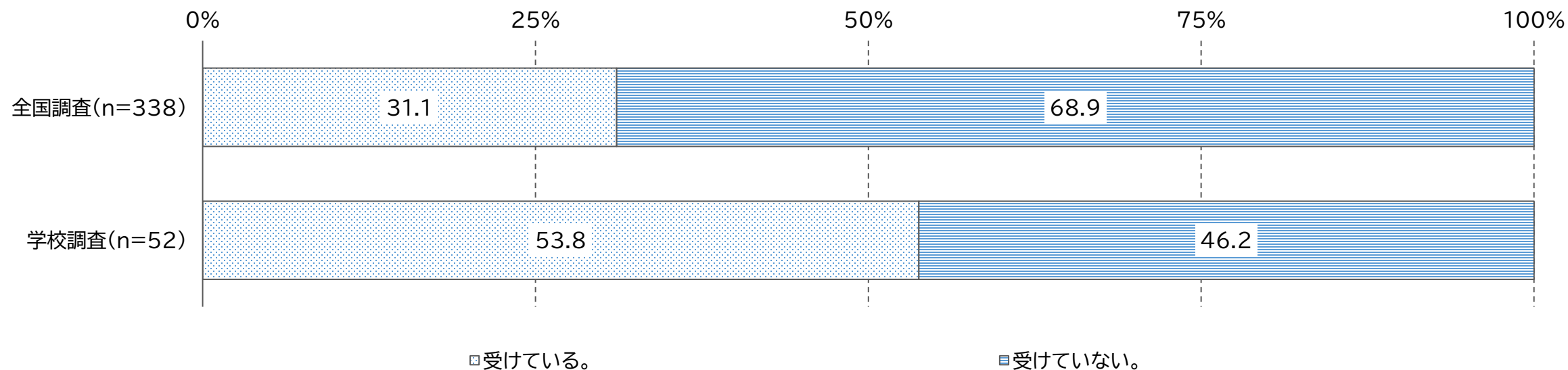
学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか。(単一選択式)



基礎自治体からの資金や人材の提供 (全国Q20、学校Q15)

- 前ページと関連して、
当事業では、基礎自治体との連携がより強固であり、
資金や人材の提供を受けている学校が多かった。(全国値との差分が約+22.7%)

学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(寮の整備など場所の提供も含む)等を受けていますか。(単一選択式)



結果(相関分析(成果検証))

成果検討～相関分析～

- 当事業の成果の要因を検討するため、相関分析を実施した。
 - 内訳: アンケート内分析、アンケート間分析(例: 学校×生徒)
 - 産学連携やマイスターハイスクール事業の成果に相当すると考えられる項目: 黄色セル
- 成果に相当する項目複数と相関関係がみられた項目ペア※や比較的強い相関関係がみられた項目ペアを中心に、以降言及する。

※相関係数は最大1、最小-1の値をとる。

最大値1に近いほど正の関係が強く、0に近いほど関係がなく、最小値-1に近いほど負の相関が強いことを示す。

本研究では、絶対値0.2以上を「相関があった」とみなすとともに、表には以下のように着色を施す。



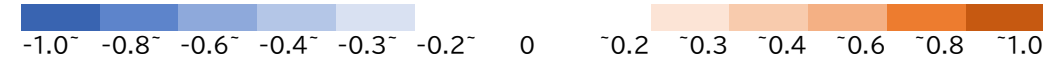
※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※単純集計結果は、「マイスター・ハイスクール事業、マイスター・ハイスクール普及促進事業 事業実施校における産学連携に関する実態調査、及び成果検証(マイスター事業アンケート調査 (1. 単純集計))」ご参照。

結果(相関分析(アンケート内分析に基づく成果検証))

生徒用アンケート 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



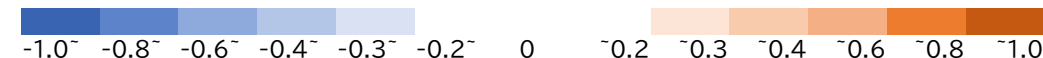
			生徒用アンケート																					
			知識・技術を学ぶ意欲	知識・技術の理解	知識・技術の活用意欲	知識・技術と実社会の関連付け	知識・技術とキャリアの関連付け	地元企業の理解	地元就職への意欲	地元貢献への意欲	将来の目標	将来の展望	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール力
			q8	q9	q10	q11	q12	q13	q14	q15	q16	q17	q18	q19	q20	q21	q22	q23	q24	q25	q26	q27	q28	q29
生徒用アンケート	学年	q3	-0.08	0.05	0.01	0.01	-0.04	0.09	0.03	0.05	0.12	0.09	0.10	0.09	0.08	0.10	0.09	0.12	0.07	0.07	0.07	0.08	0.08	0.09
	産学連携の取組頻度(授業・実習)	q4	0.09	0.06	0.10	0.07	0.11	0.11	0.01	0.06	0.06	0.05	0.03	0.06	0.00	0.06	0.05	0.07	0.04	0.07	0.10	0.07	0.08	0.04
	産学連携の取組頻度(学校行事・イベント)	q5	0.10	0.12	0.12	0.09	0.12	0.15	0.05	0.09	0.10	0.08	0.08	0.10	0.06	0.11	0.08	0.10	0.08	0.09	0.10	0.11	0.08	0.07
	産学連携の経験(課題研究やグループワーク)	q6	0.13	0.14	0.13	0.13	0.12	0.17	0.07	0.12	0.16	0.13	0.13	0.14	0.12	0.13	0.12	0.15	0.14	0.12	0.10	0.14	0.09	0.13
	産学連携の経験(企業見学・インターンシップ等)	q7	0.15	0.08	0.13	0.12	0.20	0.17	0.10	0.12	0.09	0.09	0.08	0.10	0.07	0.08	0.09	0.09	0.09	0.09	0.11	0.10	0.12	0.13

- 産学連携の経験(企業見学・インターンシップ等)(q7)と知識・技術とキャリアの関連付け(q12)との間に関連がみられた(相関0.20)
- 他方、全体的に成果項目と関連していた実態項目はなく、例えば取組頻度(q4, 5)はいずれの成果項目(q8～)とも関連していなかった。
 - 得られる示唆の例:産学連携の成果を期待するには、単純に取組頻度を増やすだけでは不十分である。

※いずれもポリコリック相関係数として算出。
※黄色:成果に相当しうる項目

教員用アンケート 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



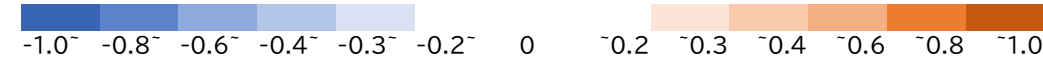
			教員用アンケート																								
			生徒の資質能力の向上													教員の指導力向上										校内体制の改善	
			(生徒評価)思考力・判断力・表現力1	(生徒評価)思考力・判断力・表現力2	(生徒評価)思考力・判断力・表現力3	(生徒評価)知識・技術を学ぶ意欲	(生徒評価)知識・技術の理解	(生徒評価)知識・技術の活用意欲	(生徒評価)知識・技術と実社会の関連付け	(生徒評価)知識・技術とキャリアの関連付け	(生徒評価)地元企業への意欲1	(生徒評価)地元貢献への意欲2	学習機会の提供	目指す生徒像の再考	専門性の向上	地元産業の理解	指導方法・カリキュラム改善	生徒に必要な資質能力の検討	授業・単元計画の検討	学びの評価に基づく改善	創造的で効率的な教育活動の実施	学校の魅力化・教育活動の活性化	校内の組織化	学校外の相談先の存在			
q6	q7	q8	q9	q10	q11	q12	q13	q14	q15	q16	q17	q21	q22	q23	q24	q25	q26	q27	q28	q29	q30	q31					
教員用アンケート	産学連携の必要性の理解	q4	0.28	0.36	0.31	0.43	0.31	0.33	0.36	0.45	0.35	0.19	0.26	0.36	0.51	0.46	0.51	0.47	0.42	0.37	0.36	0.45	0.55	0.44	0.34		
	学校目標との整合性	q5	0.33	0.40	0.38	0.42	0.31	0.31	0.41	0.49	0.31	0.26	0.33	0.38	0.62	0.45	0.55	0.38	0.40	0.33	0.34	0.47	0.64	0.47	0.38		
	地域産業・企業への理解	q18	0.29	0.27	0.28	0.30	0.31	0.23	0.30	0.36	0.37	0.20	0.26	0.34	0.40	0.50	0.55	0.45	0.43	0.44	0.46	0.44	0.53	0.46	0.33		
	生徒の関心に合った学習機会の提供	q19	0.40	0.41	0.33	0.43	0.44	0.38	0.45	0.40	0.41	0.23	0.35	0.38	0.47	0.52	0.56	0.37	0.47	0.46	0.53	0.52	0.57	0.45	0.38		
	教員の心理的安全性の確保	q32	0.33	0.40	0.49	0.28	0.16	0.25	0.40	0.47	0.45	0.28	0.08	0.44	0.62	0.37	0.46	0.65	0.57	0.53	0.39	0.52	0.65	0.57	0.55		
	教員の心理的安全性の状況	q33	0.09	0.21	0.24	0.32	0.12	0.00	0.17	0.25	0.16	-0.01	0.07	0.00	0.37	0.50	0.45	0.46	0.49	0.51	0.51	0.49	0.46	0.45	0.47		

- 上の表で示された実態項目と成果項目は、概ねいずれのペアにおいても関連がみられた。
- 心理的安全性の確保については特徴的で、管理職が当事者意識をもって産学連携担当教員の心理的安全性を確保しようとしていると成果もそれに伴い高く評価されているが(q32行)、産学連携担当教員が心理的安全性が確保されていると感じていなくても成果が高く評価されていることある(q33行 白セル箇所)
 - 得られる示唆の例:産学連携担当教員の孤軍奮闘で産学連携が支えられている可能性も考えられるため、校内はじめ、周囲がサポートする必要がある。

※いずれもポリコリグ相関係数として算出。
※黄色:成果に相当する項目
※q32は管理職、q33は事業担当者のみが回答するため、当該項目を用いた相関係数には当該項目回答者以外のデータは使用していない。

学校用アンケート 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			学校用 アンケート
			産学連携の学校 目標・ビジョンへ の貢献度
			q10
学校用 アンケート	産学連携歴	q3	-0.05
	産学連携に関わる企業・団体数	q6	0.22
	基礎自治体との連携の深さ	q14	0.06
	基礎自治体からの資源提供	q15	0.13
	連携先の理解1	q16	0.54
	連携先の理解2	q17	0.55
	連携先からの理解	q18	0.49
	課題感の反映	q19	0.60
	共通ビジョンの検討	q20	0.24
	企業の貢献度	q21	0.48
	継続性(学校側)	q22	0.19
	継続性(連携先側)	q23	0.10
	産業界との連携の必要性検討	q24	0.20
	課題の産業界への共有	q25	0.57
	産業界の目的や必要性の理解	q26	0.38
	学校と産業界の議論の場1	q27	0.30
	学校と産業界の議論の場2	q28	0.49

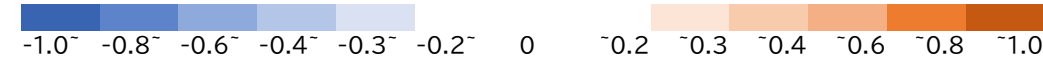
- 成果項目と関連している実態項目は、全体の半数強 あった。
 - 具体例
 - 数多くの企業・団体によって支えられていること。(q6)
 - 連携先と相互理解ができていること。(q16~18)
 - 産学連携に際して、課題感を反映できていること。連携先と共通ビジョンを持てていること。(q19, 20)
 - 企業が貢献していること(q21)
 - 産学連携に際して重要と考えられる様々なプロセスを着実に踏んでいること(q25~28)
- 産学連携歴(q3)は、成果項目と関連していなかった。
 - 得られる示唆の例:時間の長さ(量)が産学連携の成果を決定づけるわけではない。(この点は、生徒用アンケートで取組頻度(生徒q4, 5)がいずれの成果項目とも関連していなかったことと整合性がある)

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色:成果に相当する項目

参考:全国アンケート相関分析との対比

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			全国 アンケート			学校用アンケート
			産学連携の学科目標・ビジョンへの貢献度			産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度
			q12			q10
全国 アンケート	産学連携歴	q4	-0.05	学校用 アンケート	q3	-0.05
	産学連携に関わる企業・団体数	q8	0.37		q6	0.22
	産業界と学校の関係の深まり	q15	0.28		—	—
	基礎自治体との連携の深さ	q19	0.21		q14	0.06
	基礎自治体からの資源提供	q20	0.16		q15	0.13

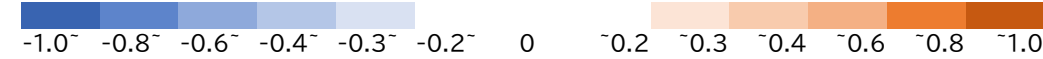
・ 全国アンケートと当事業学校用アンケートを比較すると、概ね結果は一致する。

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色:成果に相当しうる項目

産業界用アンケート 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			産業界用アンケート			
			ビジョンへの貢献度	採用活動のしやすさ	産学連携の継続意欲	産学連携意義・必要性の認識
			q7	q9	q10	q11
産業界用アンケート	産学連携歴	q4	0.33	0.22	0.41	0.34
	産学連携目的の重要性	q6	0.46	0.11	0.56	0.46
	互恵関係の成立	q13	0.36	0.55	0.09	0.50
	連携意義・必要性の認識	q14	0.46	0.33	0.60	0.65
	連携先への理解	q15	0.58	0.31	0.73	0.64
	連携先からの理解	q16	0.31	0.37	0.64	0.62
	良好な関係性	q17	0.36	0.19	0.57	0.51
	課題感の反映	q18	0.39	0.48	0.46	0.50
	双方の課題を踏まえたビジョン協議	q19	0.46	0.36	0.38	0.50
	適切な役割分担	q20	0.42	0.45	0.50	0.58
	継続性(企業・団体側)	q21	0.37	0.19	0.27	0.38
	継続性(学校側)	q22	0.29	0.17	0.27	0.32

- 左の表で示された実態項目と成果項目は、概ねいずれのペアにおいても関連がみられた。
- 採用活動のしやすさ(q9)は、他の成果項目と異なり、実態項目とあまり関連しておらず、例えば継続性(q21, 22)とは関連していなかった。
 - 得られる示唆の例: 継続可能性に依存せず達成できる成果も存在する。他方、産学連携の継続性自体が重要なので、引き続きよりよい継続の在り方を模索する必要がある。

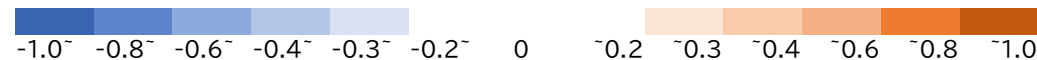
※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色: 成果に相当する項目

自治体用アンケート 相関分析

※自治体用アンケートは比較的回答数が少ない(n=26)

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			自治体用アンケート			
			産学連携の自治体目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の継続意欲	産学連携意義・必要性の認識	議会等からの理解
			q7	q9	q10	q11
自治体用アンケート	産学連携歴	q4	-0.05	0.24	0.16	0.34
	産学連携目的の重要性	q6	0.09	0.12	-0.10	0.00
	連携先(学校)からの理解	q12	0.22	0.55	0.24	0.37
	連携先(学校)への理解	q13	0.45	0.47	0.36	0.53
	連携先(産業界)への理解	q14	0.35	0.37	0.11	0.26
	連携先(産学)への理解	q15	0.63	0.55	0.06	0.60
	学校への積極提案	q16	0.07	0.32	0.17	0.37
	課題感の反映	q17	0.45	0.38	0.31	0.47
	共通ビジョンの検討	q18	0.43	0.29	0.27	0.56
	適切な役割分担	q19	0.21	0.23	0.12	0.41
	継続性(自治体側)	q20	0.34	0.39	0.30	0.45
	継続性(連携先側)	q21	0.00	0.14	0.13	0.16

- 左の表で示された実態項目と成果項目は、概ねいずれのペアにおいても関連がみられた。
 - 得られる示唆の例: 前ページの結果も踏まえると、産学連携の体制整備によって、教育現場にとってのメリットだけでなく、企業・団体や自治体にとってのメリットも実現しうる

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

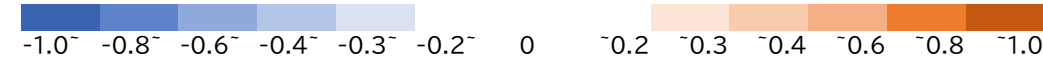
※黄色: 成果に相当する項目

結果(相関分析(学校用アンケートとの紐づけに基づく成果検証))

※学校による回答データを、在籍生徒・教員・連携先の回答データに紐づけて分析実施

生徒×学校 相関分析(1)

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



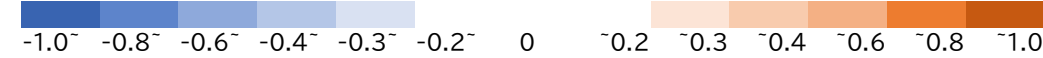
			生徒用アンケート																					
			知識・技術を学ぶ意欲	知識・技術の理解	知識・技術の活用意欲	知識・技術と実社会の関連付け	知識・技術とキャリアの関連付け	地元企業の理解	地元就職への意欲	地元貢献への意欲	将来の目標	将来の展望	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール力
			q8	q9	q10	q11	q12	q13	q14	q15	q16	q17	q18	q19	q20	q21	q22	q23	q24	q25	q26	q27	q28	q29
学校用アンケート	産学連携歴	q3	0.03	0.05	0.05	0.04	0.04	0.07	-0.03	0.01	0.02	0.00	0.00	-0.01	0.00	0.00	0.00	0.02	0.01	0.00	0.00	0.00	0.03	0.02
	産学連携に関与する企業・団体数	q6	-0.03	-0.02	-0.02	-0.02	-0.06	-0.07	-0.16	-0.12	-0.03	-0.03	-0.10	-0.10	-0.04	-0.07	-0.06	-0.07	-0.06	-0.07	-0.10	-0.08	-0.08	-0.08
	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	q10	0.00	0.04	0.03	0.03	0.03	0.05	-0.07	-0.04	-0.01	-0.01	-0.03	-0.04	-0.04	-0.02	-0.03	-0.01	-0.02	-0.02	-0.02	-0.02	0.00	-0.01
	基礎自治体との連携の深さ	q14	0.01	0.02	0.03	0.02	0.04	0.03	0.01	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.04	0.03
	基礎自治体からの資源提供	q15	-0.08	-0.10	-0.05	-0.05	-0.05	-0.09	-0.15	-0.12	-0.08	-0.08	-0.08	-0.05	-0.07	-0.05	-0.03	-0.06	-0.05	-0.02	-0.01	-0.04	0.00	-0.06

・ 学校の取組状況と生徒用アンケートにおける成果項目は、関連がみられなかった。

※いずれもポリコリック相関係数として算出。
※黄色:成果に相当しうる項目

生徒×学校 相関分析(2)

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



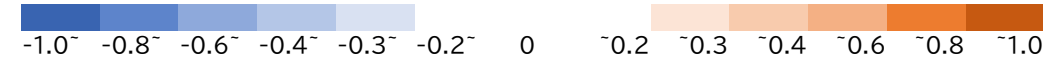
			生徒用アンケート																					
			知識・技術を学ぶ意欲	知識・技術の理解	知識・技術の活用意欲	知識・技術と実社会の関連付け	知識・技術とキャリアの関連付け	地元企業の理解	地元就職への意欲	地元貢献への意欲	将来の目標	将来の展望	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール力
			q8	q9	q10	q11	q12	q13	q14	q15	q16	q17	q18	q19	q20	q21	q22	q23	q24	q25	q26	q27	q28	q29
学校用アンケート	学校による、連携先側の産学連携目的的理解	q16	-0.03	0.00	0.01	0.00	0.02	0.03	-0.13	-0.03	-0.01	-0.01	-0.04	-0.03	-0.02	-0.02	-0.01	-0.02	-0.03	-0.01	-0.02	-0.02	-0.02	-0.03
	連携で実現する取組の把握	q17	-0.03	-0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	-0.12	-0.05	-0.01	-0.02	-0.05	-0.04	-0.02	-0.04	-0.03	-0.04	-0.04	-0.02	-0.04	-0.02	-0.03	-0.04
	連携先による、学校側の産学連携目的的理解	q18	0.02	0.03	0.03	0.03	0.01	0.05	-0.03	-0.01	0.04	0.03	-0.01	-0.02	0.00	0.00	0.00	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	0.02	0.01	-0.01
	双方の課題を踏まえた取組の実現	q19	0.04	0.04	0.02	0.04	0.02	0.03	0.00	0.00	0.06	0.05	0.01	0.00	0.03	-0.01	0.00	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.00	0.03
	双方の課題を踏まえたビジョン協議	q20	0.04	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	-0.07	-0.03	0.03	0.04	-0.01	0.00	0.03	0.03	0.02	0.00	0.01	0.01	0.00	0.03	0.00	0.02
	企業の貢献度	q21	-0.02	0.00	0.01	0.02	0.03	0.04	-0.11	-0.03	0.00	-0.01	-0.01	-0.02	0.00	-0.01	0.02	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00
	継続性(学校側)	q22	0.06	0.05	0.05	0.05	0.06	0.07	-0.01	0.03	0.05	0.03	0.03	0.03	0.04	0.03	0.04	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.03
	継続性(連携先側)	q23	0.07	0.02	0.04	0.04	0.07	0.06	0.03	0.05	0.07	0.05	0.08	0.10	0.07	0.07	0.08	0.07	0.06	0.07	0.08	0.09	0.07	0.07
	校内での産業連携の必要性検討機会	q24	-0.02	-0.03	0.01	0.01	0.00	0.01	-0.04	-0.02	0.01	0.02	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	-0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01
	学校の課題を企業に伝える機会	q25	0.03	0.00	0.04	0.01	0.02	-0.01	-0.11	-0.07	0.00	0.02	-0.05	-0.04	-0.05	-0.02	-0.03	-0.03	-0.03	0.00	0.00	-0.01	0.02	0.00
	産業界側の産学連携目的・必要性を知る機会	q26	-0.04	-0.06	-0.03	-0.02	-0.05	-0.07	-0.15	-0.11	-0.04	-0.02	-0.06	-0.05	-0.02	-0.02	0.00	-0.03	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02	-0.03	-0.03
	学校と産業界が対等な立場で議論する機会	q27	0.07	0.04	0.04	0.03	0.04	0.01	0.04	0.03	0.06	0.09	0.02	0.04	0.05	0.03	0.00	0.01	0.02	0.03	0.01	0.02	0.01	0.06
	産学連携によるカリキュラム検討・改善機会	q28	-0.02	0.00	0.03	0.03	0.04	0.05	-0.05	-0.02	0.01	-0.01	0.03	0.03	0.02	0.02	0.04	0.03	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03	0.01

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色:成果に相当しうる項目

教員×学校 相関分析(1)

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			教員用アンケート																													
			産学連携の必要性の理解	学校目標との整合性	生徒の資質能力の向上												地域産業・企業への理解	関心に合った学習機会の提供	教員の指導力向上										校内体制の改善		教員の心理的安全性の状況	教員の心理的安全性の状況
					(生徒評価)知識・技術の活用意欲	(生徒評価)知識・技術の理解	(生徒評価)知識・技術とキャリアの関連付け	(生徒評価)地元企業の理解	(生徒評価)地元貢献への意欲1	(生徒評価)地元貢献への意欲2	学習機会の提供	専門性の向上	地元産業の理解	指導方法・カリキュラム改善	生徒に必要な資質能力の検討	授業・単元計画の検討			学びの評価に基づく改善	創造的で効率的な教育活動の実施	学校の魅力化・教育活動の活性化	校内の組織化	学校外の相談先の存在	教員の心理的安全性の確保								
					q4	q5	q6	q7	q8	q9	q10	q11	q12	q13	q14	q15			q16	q17	q18	q19	q21	q22	q23	q24	q25	q26	q27	q28		
学校用アンケート	産学連携歴	q3	0.03	0.06	0.03	0.12	0.01	-0.01	0.01	0.09	0.08	0.18	0.14	-0.04	-0.03	-0.10	-0.01	0.03	-0.02	0.05	0.11	-0.11	0.00	-0.02	-0.07	-0.03	-0.06	-0.15	-0.11	-0.05	0.18	
	産学連携に関わる企業・団体数	q6	0.07	0.00	0.12	0.13	0.13	0.11	0.12	0.10	0.11	0.15	0.25	-0.24	-0.12	0.17	0.13	0.04	0.01	0.02	0.03	0.07	0.15	0.19	0.20	0.21	-0.03	0.00	-0.06	0.52	-0.08	
	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	q10	0.12	0.12	0.01	0.11	0.04	0.09	0.07	0.09	0.10	0.21	0.06	-0.18	-0.13	-0.07	0.05	0.14	-0.01	0.03	0.09	-0.03	-0.01	-0.09	-0.05	0.08	0.07	-0.01	0.01	0.18	0.43	
	基礎自治体との連携の深さ	q14	0.04	0.02	0.09	0.10	0.03	0.07	0.07	0.03	0.05	0.08	0.11	0.05	0.06	-0.06	0.00	0.06	0.06	0.01	0.16	0.01	0.08	0.01	0.07	-0.04	-0.01	0.00	-0.03	0.33	-0.06	
	基礎自治体からの資源提供	q15	0.11	-0.02	0.20	0.10	0.12	0.10	0.17	0.04	0.07	0.04	0.14	-0.19	-0.03	0.17	0.04	-0.02	0.01	-0.04	-0.03	0.05	0.09	0.10	0.09	0.07	0.10	0.11	0.02	0.45	-0.25	

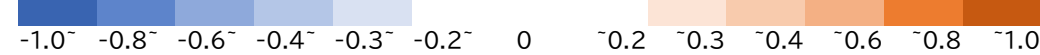
- ところどころではあるが、実態項目と成果項目が関連していた
 - 具体例(対 産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度(学校q10)):
 - 産学連携担当教員の心理的安全性が確保されていること(教員q33)
 - 特に、産学連携に関わる企業・団体数(学校q6)、産業界と連携の必要性検討する機会(学校q24)は、複数の成果項目と関連していて、重要なファクターと考えられる。
- 一方で、生徒の地元就職への意欲(教員q15)は、複数の実態項目との間に負の相関、すなわち、産学連携体制や取組プロセスが整備されるほど生徒の地元就職意欲が下がるという傾向がみられた。
 - 得られる示唆の例:産学連携に際しては、生徒が圧倒されないよう寄り添うことが重要である／産学連携の取組が活発化すると評価が厳しくなる(理想が高くなる)ことがある

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色:成果に相当する項目

教員×学校 相関分析(2)

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



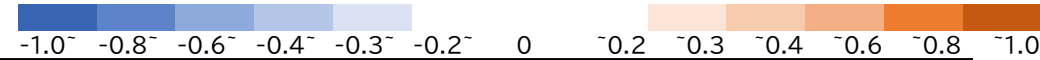
			教員用アンケート																																
					生徒の資質能力の向上															教員の指導力向上												校内体制の改善			
			産学連携の必要性の理解	学校目標との整合性	(生徒評価)思考力・判断力・表現力1	(生徒評価)思考力・判断力・表現力2	(生徒評価)思考力・判断力・表現力3	(生徒評価)知識・技術を学ぶ意欲	(生徒評価)知識・技術の理解	(生徒評価)知識・技術と実社会の関連付け	(生徒評価)知識・技術とキャリアの関連付け	(生徒評価)知識・技術の理解	(生徒評価)地元企業の意欲1	(生徒評価)地元貢献への意欲2	学習機会の提供	地域産業・企業への理解	関心に合った学習機会の提供	目指す生徒像の再考	専門性の向上	地元産業の理解	指導方法・カリキュラム改善	生徒に必要な資質能力の検討	授業・単元計画の検討	学びの評価に基づく改善	創造的で効率的な教育活動の実施	学校の魅力化・教育活動の活性化	校内の組織化	学校外の相談先の存在	教員の心理的安全性の確保	教員の心理的安全性の状況					
q4	q5	q6	q7	q8	q9	q10	q11	q12	q13	q14	q15	q16	q17	q18	q19	q21	q22	q23	q24	q25	q26	q27	q28	q29	q30	q31	q32	q33							
	連携先の理解1	q16	0.10	0.08	0.03	0.04	0.05	0.05	0.05	-0.05	0.13	0.10	0.07	-0.25	-0.11	0.15	0.11	0.01	0.07	-0.03	0.07	0.04	-0.03	0.09	0.01	0.13	0.09	0.07	0.07	0.47	0.18				
	連携先の理解2	q17	0.12	0.09	0.07	0.04	0.10	0.07	0.07	-0.01	0.14	0.15	0.14	-0.17	-0.01	0.20	0.12	0.02	0.10	0.05	0.12	0.06	0.08	0.10	0.03	0.16	0.08	0.12	0.06	0.42	0.14				
	連携先からの理解	q18	0.05	0.07	-0.06	0.00	0.04	0.05	0.01	0.08	0.09	0.09	-0.01	-0.05	-0.05	0.05	0.06	0.06	0.01	0.04	0.03	-0.01	-0.06	0.01	-0.05	0.11	0.09	0.04	0.02	0.00	0.43				
	課題感の反映	q19	-0.03	-0.05	-0.02	0.01	0.05	0.06	-0.03	0.01	0.09	0.07	-0.01	-0.10	-0.08	-0.02	0.00	0.01	-0.03	0.07	0.04	0.00	-0.02	0.00	-0.01	0.12	0.08	0.03	0.00	-0.04	0.40				
	共通ビジョンの検討	q20	0.10	0.05	0.00	0.03	0.05	0.04	0.04	0.03	0.11	0.10	0.06	-0.17	-0.07	0.04	0.07	-0.04	0.03	0.05	0.04	0.04	0.00	0.06	-0.03	0.08	0.07	0.06	0.04	0.10	0.27				
	企業の貢献度	q21	0.13	0.13	-0.03	0.08	0.06	0.07	-0.02	0.04	0.13	0.21	0.13	-0.20	-0.13	0.01	0.06	0.07	0.05	0.05	0.12	0.01	0.00	0.06	0.01	0.13	0.07	0.02	0.00	0.45	0.33				
	継続性(学校側)	q22	0.05	0.10	0.01	0.14	0.06	0.09	0.02	0.06	0.14	0.19	0.04	-0.07	0.04	0.02	-0.01	0.04	0.03	0.05	0.08	0.01	-0.07	-0.05	-0.10	0.04	-0.02	-0.01	-0.07	-0.17	0.23				
	継続性(連携先側)	q23	-0.08	0.03	0.06	0.16	0.03	0.13	0.02	0.05	0.13	0.12	-0.05	0.11	0.16	-0.02	-0.09	-0.02	0.12	0.08	0.10	0.08	-0.01	0.02	-0.06	0.03	0.03	0.04	0.01	-0.15	0.18				
	産業界との連携の必要性検討	q24	0.03	0.06	0.02	-0.06	0.03	-0.05	0.00	0.08	0.04	-0.02	0.03	0.10	0.05	-0.04	0.12	-0.04	0.17	0.16	0.11	0.06	0.17	0.28	0.16	0.10	0.16	0.26	0.27	0.49	0.18				
	課題の産業界への共有	q25	0.19	0.14	0.06	0.12	0.01	0.08	0.07	0.11	0.10	0.17	0.06	-0.28	-0.19	-0.11	0.06	0.11	-0.03	0.01	0.02	-0.08	-0.04	-0.05	-0.07	0.04	0.08	0.00	-0.02	0.00	0.31				
	産業界の目的や必要性の理解	q26	0.17	0.02	0.08	0.04	0.06	0.08	0.07	0.05	0.11	0.02	0.05	-0.32	-0.21	0.06	0.12	-0.04	0.04	0.06	-0.04	0.09	0.05	0.17	0.07	0.14	0.11	0.11	0.10	0.69	0.16				
	学校と産業界の議論の場1	q27	-0.08	-0.16	0.11	-0.01	0.04	-0.05	-0.04	-0.04	0.06	0.05	0.04	0.07	0.00	-0.15	0.02	-0.10	0.05	0.02	0.00	0.02	0.05	0.04	0.00	0.06	0.03	0.03	0.10	0.19	0.25				
	学校と産業界の議論の場2	q28	0.00	0.02	0.03	0.05	0.05	0.08	0.03	0.07	0.10	0.10	0.03	-0.10	-0.12	-0.09	0.03	0.11	-0.03	0.07	0.08	0.00	-0.02	-0.05	0.02	0.07	0.01	0.01	-0.03	0.28	0.38				

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色:成果に相当する項目

産業界×学校 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			産業界用アンケート															
			産学連携歴	産学連携目的の重要性	産学連携による企業・団体目標やビジョンへの貢献度	採用活動のしやすさ	産学連携の継続意欲	産学連携意義・必要性の認識	互恵関係の成立	連携意義・必要性の認識	連携先への理解	連携先からの理解	良好な関係性	課題感の反映	双方の課題を踏まえたビジョン協議	適切な役割分担	継続性(企業・団体側)	継続性(学校側)
			q4	q6	q7	q9	q10	q11	q13	q14	q15	q16	q17	q18	q19	q20	q21	q22
学校用アンケート	産学連携歴	q3	-0.08	-0.09	0.06	-0.07	0.15	-0.11	-0.16	0.15	0.08	0.02	0.19	-0.14	-0.11	-0.07	0.07	-0.08
	産学連携に関わる企業・団体数	q6	-0.12	0.20	0.36	0.15	0.42	0.10	0.11	0.32	0.26	0.25	0.33	0.24	0.24	0.04	0.26	0.28
	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	q10	0.05	0.21	0.14	0.10	0.01	0.34	0.25	0.08	0.06	0.08	-0.04	0.07	0.15	0.17	0.16	0.12
	基礎自治体との連携の深さ	q14	-0.22	0.21	0.16	-0.13	0.05	-0.21	-0.02	-0.23	0.06	0.02	-0.06	0.02	0.12	0.03	0.07	0.03
	基礎自治体からの資源提供	q15	-0.01	-0.07	-0.22	-0.18	-0.25	-0.47	-0.17	-0.29	-0.20	-0.16	-0.33	0.08	-0.02	-0.09	-0.24	0.04
	連携先の理解1	q16	0.02	0.15	0.30	0.20	0.22	0.42	0.21	0.19	0.33	0.17	0.23	0.25	0.29	0.22	-0.03	0.02
	連携先の理解2	q17	-0.12	0.26	0.13	0.18	-0.05	0.30	0.39	-0.07	0.15	0.12	0.15	0.22	0.35	0.12	-0.19	0.06
	連携先からの理解	q18	0.23	0.16	0.26	0.37	0.23	0.58	0.32	0.34	0.24	0.22	0.30	0.13	0.11	0.21	0.08	-0.07
	課題感の反映	q19	0.25	0.14	0.29	0.16	0.11	0.63	0.27	0.25	0.27	0.19	0.25	0.23	0.27	0.27	0.16	0.05
	共通ビジョンの検討	q20	0.25	0.13	0.28	0.21	0.28	0.19	0.06	0.29	0.34	0.23	0.34	0.27	0.27	0.23	-0.04	0.11
	企業の貢献度	q2	0.18	0.30	0.33	0.06	0.11	0.44	0.13	0.04	0.32	0.22	0.42	0.21	0.30	0.21	-0.02	0.01
	継続性(学校側)	q22	0.08	0.09	0.11	0.08	-0.16	0.11	0.20	0.02	0.07	0.13	0.19	0.08	0.16	0.13	-0.03	0.01
	継続性(連携先側)	q23	0.08	0.03	0.11	0.01	-0.09	0.12	0.17	0.01	0.09	0.12	0.22	0.08	0.14	0.11	0.04	-0.10
	産業界との連携の必要性検討	q24	0.00	0.05	0.19	0.29	0.23	0.08	0.10	0.29	0.19	0.16	0.18	0.24	0.17	0.13	0.00	0.11
	課題の産業界への共有	q25	0.15	0.03	0.03	0.05	-0.06	0.04	0.05	0.10	-0.14	0.02	-0.16	-0.06	-0.05	0.09	0.31	0.10
	産業界の目的や必要性の理解	q26	0.26	-0.15	0.10	0.15	0.13	0.03	-0.07	0.27	0.13	0.06	0.18	0.26	0.01	0.01	-0.16	0.01
	学校と産業界の議論の場1	q27	0.13	0.36	0.45	0.13	0.28	0.46	0.16	0.11	0.37	0.23	0.08	0.34	0.43	0.33	0.21	0.24
	学校と産業界の議論の場2	q28	0.33	0.29	0.20	0.10	0.17	0.36	0.06	0.22	0.19	0.17	0.07	0.25	0.22	0.22	0.06	0.23

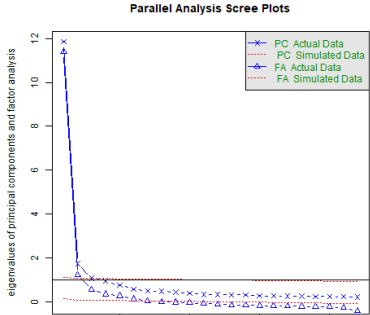
- 産業界用アンケートにおける成果項目は3割程度の学校実態項目と、学校用アンケートにおける成果項目は2割程度の産業実態項目と関連していた。
 - 具体例(対 産業界用アンケートq7, 9~11):連携先と相互理解ができていること。(学校q16~18)
- 一方で、基礎自治体との連携の深さや基礎自治体からの資源提供(学校q14, 15)は、産学連携意義・必要性の認識(産業q11)との間に負の相関がみられた。
 - 得られる示唆の例:学校がどれほど周囲からサポートを得ているかに左右される、いわば片務的な関係性があるとすれば、継続性のためにも互恵的な関係性を目指す必要がある。

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

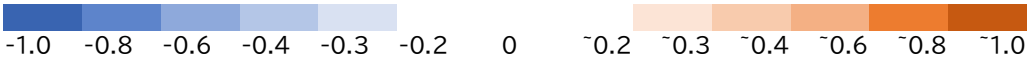
※黄色:成果に相当する項目

参考)生徒用アンケート成果項目の精査

- 成果項目の背後にある因子を確認するため、探索的因子分析を実施した
 - 手順:ポリコリック相関行列を作成後、平行分析を用いて因子数を読み取った。
因子数をもとに、探索的因子分析を実施。(重みつき最小二乗法、プロマックス回転使用)
- 結果:平行分析から6因子構造と読み取った。また、各因子の内容を解釈し、仮命名した。
 - いずれの項目も、いずれかの因子に対する因子負荷量の絶対値が0.35以上となった。
また、各因子のまとまりは概ね想定通り、且つα係数も0.74以上で、ある程度信頼性のある尺度であると判断した。



		調査指標	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	共通性	独自性	複雑性	因子名	α係数
何かの課題に取り組むとき、解決策の選択肢をいくつか挙げて検討することができる。	q23	創造力	0.89	0.13	-0.06	-0.16	-0.01	0.06	0.68	0.32	1.13	社会人基礎力	0.91
目標を達成するために、解決すべき問題を見つけることができる。	q21	課題発見力	0.86	0.11	0.00	-0.07	-0.04	-0.01	0.75	0.25	1.05		
何かの課題に取り組むとき、必要な手順について優先順位を決められる。	q22	計画力	0.83	0.06	0.07	-0.17	-0.02	0.01	0.62	0.38	1.11		
失敗を恐れず、行動に移すことができる。	q20	実行力	0.83	-0.15	-0.17	0.20	0.05	0.01	0.66	0.34	1.29		
話し相手に対して、自分の意見を分かりやすく伝えることができる。	q24	発信力	0.75	-0.08	0.00	0.01	0.02	0.35	0.72	0.28	1.44		
やるべきことに対して、積極的に取り組むことができる。	q18	主体性	0.61	-0.04	0.14	0.19	0.00	-0.12	0.68	0.32	1.40		
グループで活動するとき、何をすればよいか、自分の役割を理解できる。	q27	状況把握力	0.59	0.02	0.26	0.00	-0.02	0.14	0.68	0.32	1.52		
困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組もうとすることができる。	q29	ストレスコントロール力	0.52	-0.03	0.26	0.14	0.04	-0.03	0.70	0.30	1.68		
目標を達成するために、周りの人の力を借りながら取り組むことができる。	q19	働きかけ力	0.43	0.09	0.31	0.09	-0.01	-0.08	0.64	0.36	2.10	社会への関心	0.85
仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業がなぜ大切か分かった。	q11	知識・技術と実社会の関連付け	0.06	0.82	-0.02	-0.03	0.00	-0.02	0.68	0.32	1.02		
仕事や社会で使われている知識や技術を、普段の生活の中で役立てたいと思う。	q10	知識・技術の活用意欲	-0.01	0.81	0.12	-0.01	-0.06	-0.04	0.69	0.31	1.06		
企業や地域の人から学ぶことは、将来の進路を考えるのに役立つと思う。	q12	知識・技術とキャリアの関連付け	-0.22	0.78	0.31	-0.04	0.02	-0.04	0.69	0.31	1.51		
授業で学んでいる知識や技術について、もっと知りたいと思う。	q8	知識・技術を学ぶ意欲	0.03	0.75	0.01	0.03	-0.02	-0.03	0.60	0.40	1.01		
地域の企業や産業について、進路を考えるための情報を十分に知ることができた。	q13	地元企業の理解	0.12	0.59	-0.05	0.09	0.09	0.04	0.60	0.40	1.21		
仕事や社会の中で使われている知識や技術について、理解していると思う。	q9	知識・技術の理解	0.29	0.53	-0.25	0.14	0.03	0.12	0.59	0.41	2.38		
集団や社会生活の規則やルールを守ることができる。	q28	規律性	0.05	0.08	0.77	-0.01	0.01	0.03	0.74	0.26	1.03	他者志向	0.74
相手の立場や意見を尊重することができる。	q26	柔軟性	0.10	0.06	0.71	0.00	0.01	0.24	0.74	0.26	1.28		
将来に対して希望を持っている。	q17	将来の展望	-0.04	0.04	0.04	0.84	-0.05	0.04	0.72	0.28	1.03	将来志向	0.78
将来の目標を考え、それを実現するために努力している。	q16	将来の目標	0.05	0.14	-0.02	0.74	-0.03	0.01	0.73	0.27	1.08		
地元の企業に就職したいと思う(進学する場合は卒業後に)。	q14	地元就職への意欲	0.02	-0.04	-0.03	-0.11	0.94	0.00	0.75	0.25	1.03	地元貢献欲	0.74
地元の発展に貢献したいと思う。	q15	地元貢献への意欲	-0.04	0.12	0.09	0.09	0.68	-0.01	0.71	0.29	1.15		
話し相手の意見や主張を正確に聞き取ることができる。	q25	傾聴力	0.37	-0.04	0.42	0.06	-0.02	0.46	0.77	0.23	2.98	—	—
寄与率			5.60	3.67	2.28	1.70	1.37	0.54					
累積寄与率			0.25	0.17	0.10	0.08	0.06	0.02				41	
			0.37	0.61	0.76	0.87	0.96	1.00					
※q18～q28は社会人基礎力を参考にして作成した項目。 Q25,26,28以外は同じ因子にまとまった。													

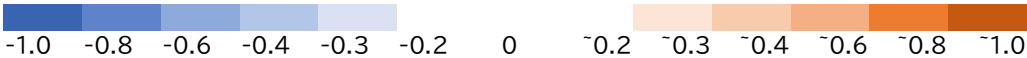


- 単項目を用いた分析同様、生徒の成果項目を因子にまとめても、生徒の取組状況とは無相関だった。

			生徒用アンケート					
			因子1 社会人基礎 力	因子2 社会への関 心	因子3 他者志向	因子4 将来志向	因子5 地元貢献欲	因子6 (傾聴力)
生徒用 アンケート	学年	q3	0.10	0.02	0.06	0.09	0.04	0.02
	産学連携の取組頻度(授業・実習)	q4	0.05	0.09	0.07	0.05	0.04	0.04
	産学連携の取組頻度(学校行事・イベント)	q5	0.10	0.12	0.08	0.10	0.08	0.05
	産学連携の経験(課題研究やグループワーク)	q6	0.12	0.12	0.09	0.13	0.09	0.06
	産学連携の経験(企業見学・インターンシップ等)	q7	0.09	0.13	0.10	0.09	0.10	0.03

※ポリシリアル相関係数として算出。
※黄色:成果に相当しうる項目

参考)生徒×学校 相関分析



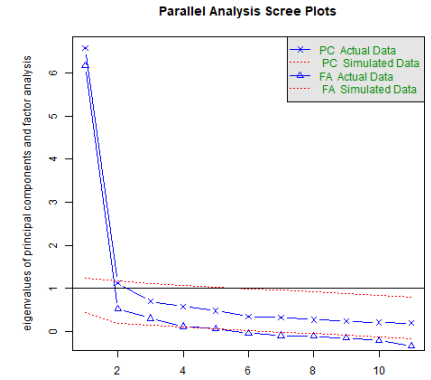
- 単項目を用いた分析同様、生徒の成果項目を因子にまとめても、学校の取組状況とは無相関だった。

			生徒用アンケート					
			因子1 社会人基礎力	因子2 社会への関心	因子3 他者志向	因子4 将来志向	因子5 地元貢献欲	因子6 (傾聴力)
学校用アンケート	産学連携歴	q3	0.02	0.05	0.02	0.02	0.01	0.01
	産学連携に関わる企業・団体数	q6	-0.09	-0.07	-0.10	-0.06	-0.15	-0.01
	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	q10	-0.03	0.02	-0.02	-0.01	-0.04	0.01
	基礎自治体との連携の深さ	q14	0.03	0.03	0.04	0.03	0.02	-0.01
	基礎自治体からの資源提供	q15	-0.08	-0.09	-0.03	-0.10	-0.15	0.00
	連携先の理解1	q16	-0.03	-0.01	-0.02	-0.02	-0.09	0.00
	連携先の理解2	q17	-0.04	-0.02	-0.03	-0.03	-0.08	-0.01
	連携先からの理解	q18	0.00	0.03	0.00	0.03	-0.01	0.00
	課題感の反映	q19	0.02	0.03	0.00	0.05	0.01	0.01
	共通ビジョンの検討	q20	0.02	0.02	0.00	0.03	-0.04	0.01
	企業の貢献度	q2	0.00	0.00	0.00	-0.01	-0.07	0.01
	継続性(学校側)	q22	0.04	0.06	0.02	0.05	0.01	0.00
	継続性(連携先側)	q23	0.07	0.06	0.08	0.06	0.03	0.00
	産業界との連携の必要性検討	q24	0.00	0.00	0.02	0.01	-0.02	-0.01
	課題の産業界への共有	q25	-0.03	0.00	0.01	-0.01	-0.09	0.00
	産業界の目的や必要性の理解	q26	-0.04	-0.06	-0.03	-0.05	-0.14	0.00
	学校と産業界の議論の場1	q27	0.04	0.05	0.03	0.08	0.05	0.00
	学校と産業界の議論の場2	q28	0.03	0.02	0.03	0.01	-0.03	0.01

※ポリシリアル相関係数として算出。
※黄色:成果に相当しうる項目

参考)教員用アンケート成果項目の精査

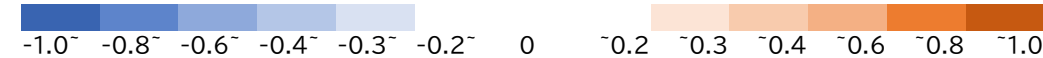
- 成果項目の背後にある因子を確認するため、探索的因子分析を実施した
 - 手順:ポリコリック相関行列を作成後、平行分析を用いて因子数を読み取った。
因子数をもとに、探索的因子分析を実施。(重みつき最小二乗法, プロマックス回転使用)
- 結果:平行分析から3因子構造と読み取った。また、各因子は概ね当初想定通りにわかれた。
 - いずれの項目も、いずれかの因子に対する因子負荷量の絶対値が0.35以上となった。
 α 係数は0.71以上で、ある程度信頼性のある尺度であると判断した。



		作成時想定因子	因子1	因子2	因子3	共通性	独自性	複雑性	因子名	α 係数
生徒は、普段の生活の中で、仕事や社会で使われている知識や技術を役立てたいと思っている。	q11	学びに向かう力・人間性等	1.02	-0.17	-0.03	0.76	0.24	1.06	学びに向かう力・人間性等	0.86
生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業の大切さを理解している。	q12	学びに向かう力・人間性等	0.70	0.21	-0.03	0.73	0.27	1.18		
生徒は、企業や地域の人から学ぶことが、将来の進路を考えるのに役立つと思っている。	q13	学びに向かう力・人間性等	0.68	-0.04	0.17	0.59	0.41	1.12		
生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術について理解している。	q10	知識・技能	0.66	0.23	0.00	0.74	0.26	1.24		
生徒は、授業で学んでいる知識や技術に興味を持っている。	q9	学びに向かう力・人間性等	0.61	0.33	-0.18	0.64	0.36	1.74		
生徒は、地域の企業や産業について、進路を考えるための十分な情報を得ている	q14	その他(進路意識)	0.36	0.14	0.31	0.51	0.49	2.29	思考力・判断力・表現力	0.81
生徒は、課題に対して粘り強く考えることができる。	q6	思考力・判断力・表現力	-0.14	1.05	-0.02	0.87	0.13	1.04		
生徒は、課題に対して他者と協力することができる。	q7	思考力・判断力・表現力	0.13	0.68	0.07	0.68	0.32	1.09		
生徒は、自分の意見や考えを分かりやすく伝えることができる。	q8	思考力・判断力・表現力	0.14	0.67	0.05	0.67	0.33	1.11	その他(進路意識)	0.71
生徒は、地元への貢献意識が高い傾向にある。	q16	その他(進路意識)	0.00	0.03	0.86	0.77	0.23	1.00		
生徒は、地元の企業への就職(進学する場合は卒業後に)について前向きに考えている。	q15	その他(進路意識)	-0.04	-0.03	0.76	0.51	0.49	1.01		
寄与			3.34	2.60	1.55					
寄与率			0.25	0.17	0.10					
累積寄与率			0.30	0.54	0.68					

参考)教員用アンケート 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



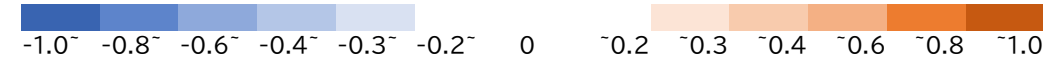
- 単項目を用いた分析同様、教員の成果項目を因子にまとめても、教員の取組状況との間に複数相関がみられた

			教員用アンケート		
			因子1 学びに向かう力・ 人間性等	因子2 思考力・判断力・ 表現力	因子3 その他(進路意 識)
教員用 アンケート	産学連携の必要性の理解	q4	0.37	0.33	0.29
	学校目標との整合性	q5	0.37	0.36	0.33
	地域産業・企業への理解	q18	0.31	0.30	0.29
	生徒の関心に合った学習機会の提供	q19	0.42	0.39	0.35
	教員の心理的安全性の確保	q32	0.42	0.41	0.21
	教員の心理的安全性の状況	q33	0.17	0.16	0.09

※ポリシリアル相関係数として算出。
※黄色:成果に相当しうる項目

参考)教員×学校 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



- 単項目を用いた分析同様、教員の成果項目を因子にまとめても、学校の取組状況と成果は無相関だった。

			教員用アンケート		
			因子1 学びに向かう力・人間性等	因子2 思考力・判断力・表現力	因子3 その他(進路意識)
学校用アンケート	産学連携歴	q3	0.09	0.06	0.03
	産学連携に関わる企業・団体数	q6	0.14	0.14	-0.07
	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	q10	0.11	0.06	-0.07
	基礎自治体との連携の深さ	q14	0.07	0.09	0.07
	基礎自治体からの資源提供	q15	0.10	0.15	-0.03
	連携先の理解1	q16	0.04	0.05	-0.10
	連携先の理解2	q17	0.07	0.08	-0.02
	連携先からの理解	q18	0.06	0.00	-0.02
	課題感の反映	q19	0.02	0.01	-0.07
	共通ビジョンの検討	q20	0.06	0.04	-0.06
	企業の貢献度	q21	0.08	0.04	-0.08
	継続性(学校側)	q22	0.10	0.07	0.03
	継続性(連携先側)	q23	0.09	0.09	0.11
	産業界との連携の必要性検討	q24	0.01	-0.01	0.05
	課題の産業界への共有	q25	0.10	0.07	-0.13
	産業界の目的や必要性の理解	q26	0.05	0.07	-0.17
	学校と産業界の議論の場1	q27	-0.01	0.04	0.02
	学校と産業界の議論の場2	q28	0.07	0.05	-0.07

※ポリシリアル相関係数として算出。
※黄色:成果に相当しうる項目

結果(補足的成果検証(生徒の自由記述整理))

授業や実習等において感じたこと (生徒Q30)

- 補足的な成果検証として、生徒用アンケートQ30「授業や実習等において感じたこと」※を活用した。
※Q30.企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等について、どのように感じていますか。(印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)(自由記述式)
- 結果、回答者のうち約8割の生徒から記述が得られ、概ねすべての記述内容が産学連携に対する肯定的評価であった。
- 記述内容の分類結果を以下に示す。

	トピックス	具体例
1	地域社会との関わり	• 社会について詳しく学べたので良い経験になりました。 • 実際に社会で活躍されている方の考え方や努力してきたことを聞いたことで、今の自分と当てはめて考えることができた。
2	企業との連携	• 企業の方と直接話すことができるので良い機会だと思う。 • どの企業さんも常に進化してるんだと感じさせられます。
3	実習の重要性	• 実習で実際に施設で学ぶことによって、自分の短所を治すことが出来たり、技術を身に付けたりすることが出来ました。 • 実際職場実習などの活動で現地に行くことで、文章や画像では伝わらない細かいことや雰囲気を感じられたため、やはりこういった体験は学生において必要だなと感じました。
4	将来の進路選択	• 本当に将来のために参考になるし、ひとりひとり違った視点で教えてくれるのでたくさんの視点から知れて嬉しいです。 • 僕たちは、まだまだ大人とは程遠いほど、学力の差を感じました。働く年齢になる前にまだまだ学習が必要であると感じました。
5	学びの拡張	• 専門職の方から実際に指導していただくことで、授業では学べない知識や技術を得ることができるため、とても良い機会だと思う。 • 普段行わないことなどをして、新しい発見などを見つけることができたり、物事を学びなおすチャンスとして活動することができて楽しい。
6	謝意	• 実際に自分が目指している職業に就いている人にお話を聞けるのはとても貴重な経験だからそのような機会があるのはありがたいです • 地域活性化に貢献しようと頑張っている市役所の方々や一般市民の方々にも協力していただいたため、とても感謝している。
7	コミュニケーション能力の向上	• コミュニケーションをとりながら実習をすることができました。 • 企業の人と話してる時にコミュニケーション能力を学べたり、話をしっかり聞くということやもできたので良かった。
8	その他	■有用性 専門性の高い方々から有益な話を聞くことが出来て、とてもためになった。 インターンシップでは実際にお客様に対応してみて、対応の仕方や礼儀など教えていただきすごくためになりました。 ■意欲 皆様からの専門的な知識はとてもこれからの糧となるのもっと聞いたり試したりしていきたいです。 ■要望 貴重な経験になったからもっと機会が増えたらいいと思った。 ■具体的なエピソードや印象 溶接の授業がとても印象深く、楽しいと感じました。 地元の人達と協力して行われたドローンの操縦体験会や意見交流など。あとは水中ドローンの操縦の仕方も教えたりしたのが印象に残っています。

結果(リサーチクエスション(RQ)に基づく分析)

※自治体用アンケートについては回答数が26件であり、クロス集計・分析をすることによって1セル当たりの回答数が0～3件のセルが多数発生してしまうことから、掲載見送りとした

リサーチクエスチョン一覧

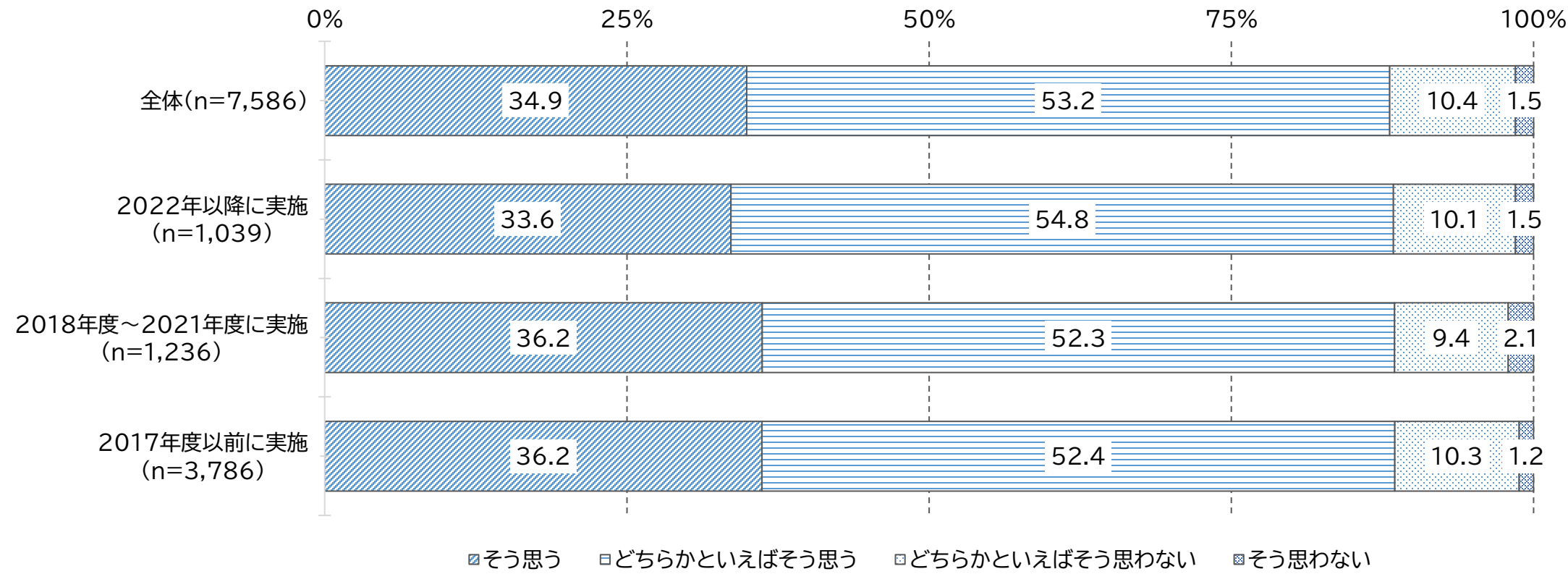
	内容
生徒用アンケート	産学連携歴が長いほど、より成果を上げているか (学校Q3×生徒Q8～29)
	産学連携の取組の種類が充実しているほど、生徒の資質能力は高いか (学校Q5×生徒Q8～29)
教員用アンケート	産学連携の取組と学校目標との整合性は、管理職や当事業担当者など各立場からどのように評価されているか(教員Q20×教員Q5)
産業界用アンケート	取組目的によってその重要度評価に違いがみられるか (産業Q6×産業Q5)
	取組年数が長いほど、より成果を上げることができるか。 (産業Q7×産業Q4)
	目的に応じて産学連携の効果は実感されているか (産業Q8×産業Q5)
	産学連携による企業・団体目標やビジョンへの貢献度を高く評価している企業・団体は、どのようなメリットを感じているか(産業Q8×産業Q7)
	採用活動のやり易さは実感されているか (産業Q9×産業Q5)
	産学連携の意義や必要性は実感されているか (産業Q11×産業Q5)

結果(リサーチクエスション(RQ)に基づく分析)
生徒用アンケート中心

RQ:産学連携歴が長いほど、より成果を上げているか (学校Q3×生徒Q8～29)

- 「[生徒×学校 相関分析](#)」で示したように、産学連携歴と生徒の成果指標との間には基本的に関連がみられなかった。
成果指標個々に対してクロス集計を実施しても、歴が長いほど成果を上げている傾向はみられなかった。(以下、例示)

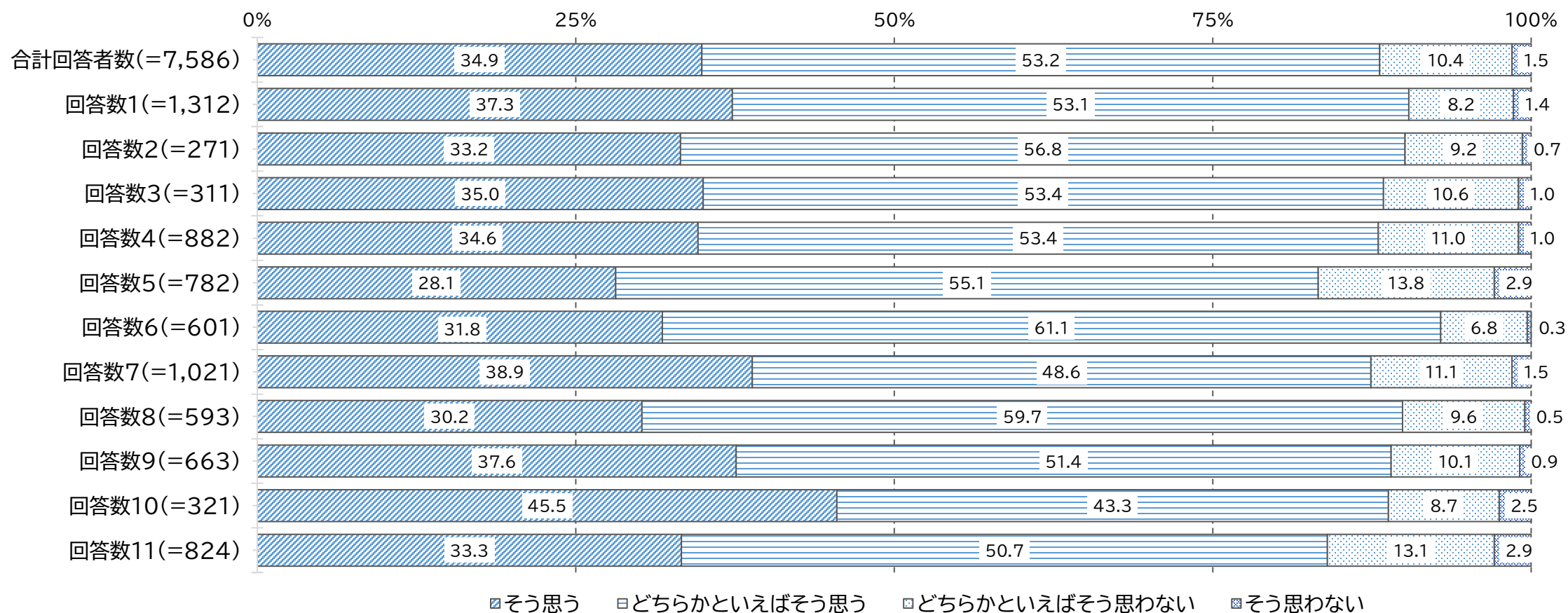
Q29.困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組もうとすることができる。(単一選択式)



RQ:産学連携の取組の種類が充実しているほど、生徒の資質能力は高いか(学校Q5×生徒Q8～29)

- 産学連携の取組内容の数(最小1、最大12)をカウントし、成果指標個々に対してとクロス集計を実施したが、取組の種類が充実しているほど成果を上げている傾向はみられなかった。(以下、例示)

Q29.困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組もうとすることができる。(単一選択式)



RQ:産学連携の取組の種類が充実しているほど、生徒の資質能力は高いか(学校Q5×生徒Q8～29)

- 相関分析からも同様で、産学連携の取組内容の数と個々の成果指標との関連はみられず、前ページと整合性のある結果であった。

			生徒用アンケート																					
			知識・技術を学ぶ意欲	知識・技術の理解	知識・技術の活用意欲	知識・技術と実社会の 関連付け	知識・技術とキャリアの 関連付け	地元企業の理解	地元就職への意欲	地元貢献への意欲	将来の目標	将来の展望	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール力
			q8	q9	q10	q11	q12	q13	q14	q15	q16	q17	q18	q19	q20	q21	q22	q23	q24	q25	q26	q27	q28	q29
学校用アンケート	産学連携の 取組内容の数	q5※	-0.05	-0.05	-0.01	-0.02	-0.01	-0.01	-0.09	-0.05	-0.04	-0.04	-0.03	-0.02	-0.02	-0.01	0.01	-0.01	0.01	0.00	-0.01	-0.02	0.00	-0.02

※q5の回答を基に、種類をカウント(最小1、最大12)

※ポリシリアル相関係数として算出。

結果(リサーチクエスション(RQ)に基づく分析)
教員用アンケート中心

RQ:産学連携の取組と学校目標との整合性は、管理職や当事業担当者など各立場からどのように評価されているか(教員Q20×教員Q5)

- 管理職や事業担当者の方がその他の教員よりも「そう思う」回答者割合が高い(管理職は約40%、事業担当者は約10%高い)。(4点(そう思わない)～1点(そう思わない)で点数付与し平均値を算出すると、他の立場の教員よりも0.1～0.5ポイント高い)。
- 考えられる示唆の例:自校の産学連携取組内容や学校目標について理解が深まっておらず評価しづらかった。

		合計	Q5.産学連携の取組が、学校の目標に合っている					平均	標準偏差
			そう思う	どちらかといえ ばそう 思う	どちらかといえ ばそう 思わない	そう思わな い	不明		
合計回答者数		553 100.0	268 48.5	263 47.6	20 3.6	2 0.4	0 0.0	3.44	0.584
Q20.マイス ター・ハイスク ール事業への関与 の仕方	管理職として、マイスター・ハイ スクール事業に関わっている。	29 100.0	25 86.2	4 13.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.86	0.351
	担当者として、マイスター・ハイ スクール事業に関わっている。	123 100.0	69 56.1	49 39.8	5 4.1	0 0.0	0 0.0	3.52	0.578
	担当者ではないが、授業やイベン ト等の実施を通じて、マイスター・ ハイスクール事業に関わっている。	216 100.0	91 42.1	118 54.6	6 2.8	1 0.5	0 0.0	3.38	0.567
	担当者ではなく、マイスター・ハイ スクール事業に関わっていない。	176 100.0	78 44.3	89 50.6	8 4.5	1 0.6	0 0.0	3.39	0.603
	その他	9 100.0	5 55.6	3 33.3	1 11.1	0 0.0	0 0.0	3.44	0.726

結果(リサーチクエスチョン(RQ)に基づく分析)
産業界用アンケート中心

RQ:取組目的によってその重要度評価に違いがみられるか (産業Q6×産業Q5)

- 「新規採用人材の確保」や「地域における認知度向上」を主目的としている企業・団体は、他を主目的としている企業・団体よりも重要課題として強くとらえられている傾向があった。
(4点(そう思わない)～1点(そう思う)で点数付与し平均値を算出すると、他の立場の企業・団体より最大0.9ポイント高い)。
- 考えられる示唆の例:課題によって切実度は異なる。

Q6.前の質問で挙げた目的について、どのくらい重要だと考えていますか。(単一選択式)

	合計	貴団体としての最重要課題である	確実に取り組むべき重要な課題である	優先度は高くないが、取り組むべき課題である	取り組む必要性は低い課題である	不明	平均
合計回答者数	57 100.0	10 17.5	39 68.4	8 14.0	0 0.0	0	3.04
Q5.産学連携に取り組む最も大きな目的							
新規採用人材を確保するため	7 100.0	2 28.6	5 71.4	0 0.0	0 0.0	0	3.29
生徒に、産業界等のニーズに即したスキルや知識を獲得してもらう	12 100.0	2 16.7	9 75.0	1 8.3	0 0.0	0	3.08
社員のスキルアップや研修の一環として	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0	-
貴団体の地域における認知度を向上させるため	4 100.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0	3.25
社会的貢献やCSR(企業の社会的責任)活動として	16 100.0	3 18.8	11 68.8	2 12.5	0 0.0	0	3.06
学校との共同プロジェクト等を通じて、新しい技術や製品、サービス	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0	3.00
学校からの依頼に応じたため	8 100.0	0 0.0	3 37.5	5 62.5	0 0.0	0	2.38
まだ具体的な目的は明確にできていない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0	-
その他	8 100.0	2 25.0	6 75.0	0 0.0	0 0.0	0	3.25

RQ:取組年数が長いほど、より成果を上げることができるか。 (産業Q7×産業Q4)

- 「[産業界用アンケート 相関分析](#)」で示したように、産学連携歴と産学連携による企業・団体目標やビジョンへの貢献度との間には関連がみられた(相関.033)。
クロス集計を実施しても、歴が長いほど成果を上げている傾向はみられた。
(4点(非常に貢献している)～1点(全く貢献していない)で点数付与し平均値を算出すると、歴が長くなるにつれ平均値が高くなっている)
- 考えられる示唆の例:よりよい産学連携の在り方について、時間とともに深めることができている

Q7.産学連携の活動が、貴団体の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？(単一選択式)

		合計	非常に貢献している	ある程度貢献している	あまり貢献していない	全く貢献していない	不明	平均
合計回答者数		57	22	29	5	1	0	3.26
		100.0	38.6	50.9	8.8	1.8		
Q4.産学連携の取組歴	2022年度以降に実施(1～2年前から)	21	6	10	4	1	0	3.00
		100.0	28.6	47.6	19.0	4.8		
	2018年度～2021年度に実施(3～5年前から)	20	8	12	0	0	0	3.40
		100.0	40.0	60.0	0.0	0.0		
	2017年度以前に実施(6年以上前から継続して実施)	9	7	2	0	0	0	3.78
		100.0	77.8	22.2	0.0	0.0		
	いつからか不明	6	1	4	1	0	0	3.00
		100.0	16.7	66.7	16.7	0.0		
	その他	1	0	1	0	0	0	3.00
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0		

RQ:目的に応じて産学連携の効果は実感されているか (産業Q8×産業Q5)

- 前ページのような良好な結果とは反対に、詳細を確認すると、必ずしも目的に応じて産学連携の効果が実感されているとは言えない。
例えば、「新規採用人材を確保する」ことを第一の目的として掲げる企業・団体の6割近くが「団体の認知度が向上した」と回答する一方、3割未満しか「充実した人材募集活動ができた」と回答していなかった。
- 得られる示唆の例:産学連携によって概ねの成果は上げられているが(前ページ)、個々の成果をより確かなものとするにはさらなる試行錯誤が求められる。

Q8.産学連携の取組を通じて、貴団体として実感しているメリットを教えてください。(複数選択式)

	合計	充実した人材募集活動ができた	産業界等のニーズに沿った人材が育成できた	社員のスキルアップにつながった	貴団体の認知度が向上した	社会的責任を果たせた	新しい技術や製品、サービスの開発を促進できた	他の企業等との関係が深まった	貴団体の研究開発プロジェクトが推進できた	地域産業の発展に寄与できた	まだ実感できていない	その他	不明
合計回答者数	57 100.0	14 24.6	17 29.8	4 7.0	28 49.1	29 50.9	7 12.3	13 22.8	5 8.8	18 31.6	6 10.5	9 15.8	0
Q5.産学連携に取り組む最も大きな目的	7 100.0	2 28.6	3 42.9	1 14.3	4 57.1	2 28.6	1 14.3	0 0.0	1 14.3	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0
生徒に、産業界等のニーズに即したスキルや知識を獲得してもらう	12 100.0	4 33.3	4 33.3	1 8.3	6 50.0	4 33.3	1 8.3	3 25.0	0 0.0	4 33.3	0 0.0	2 16.7	0
社員のスキルアップや研修の一環として	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
貴団体の地域における認知度を向上させるため	4 100.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	3 75.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0
社会的貢献やCSR(企業の社会的責任)活動として	16 100.0	4 25.0	5 31.3	2 12.5	10 62.5	14 87.5	2 12.5	4 25.0	1 6.3	6 37.5	2 12.5	0 0.0	0
学校との共同プロジェクト等を通じて、新しい技術や製品、サービス	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0
学校からの依頼に応じたため	8 100.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	2 25.0	4 50.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	2 25.0	0
まだ具体的な目的は明確にできていない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
その他	8 100.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	3 37.5	3 37.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	4 50.0	0 0.0	5 62.5	0

RQ:産学連携による企業・団体目標やビジョンへの貢献度を高く評価している企業・団体は、どのようなメリットを感じているか(産業Q8×産業Q7)

- 「非常に貢献している」と回答した企業・団体の5割以上が、産学連携の効果として「企業・団体の認知度向上」「社会的責任の達成」「地域産業発展への寄与」を実感していた。

Q8.産学連携の取組を通じて、貴団体として実感しているメリットを教えてください。(複数選択式)

		合計	Q8.実感しているメリット											
			充実した 人材募集 活動がで きた	産業界等 のニーズ に沿ったス キルや知 識を持った 人材が 育成でき た	社員のス キルアップ につな がった	貴団体の 認知度が 向上した	社会的責 任を果た せた	新しい技 術や製品、 サービスの 開発を促 進できた	他の企業 等との関 係が深まっ た	貴団体の 研究開発 プロジェクトが推進で きた	地域産業 の発展に 寄与でき た	まだ実感 できてい ない	その他	不明
	合計回答者数	57	14	17	4	28	29	7	13	5	18	6	9	0
		100.0	24.6	29.8	7.0	49.1	50.9	12.3	22.8	8.8	31.6	10.5	15.8	
Q7.目標 やビジョン への貢献	非常に貢献している	22	8	9	2	15	15	3	10	4	13	0	1	0
		100.0	36.4	40.9	9.1	68.2	68.2	13.6	45.5	18.2	59.1	0.0	4.5	
	ある程度貢献している	29	6	7	2	12	11	3	2	1	4	4	7	0
		100.0	20.7	24.1	6.9	41.4	37.9	10.3	6.9	3.4	13.8	13.8	24.1	
	あまり貢献していない	5	0	1	0	1	3	1	1	0	1	1	1	0
		100.0	0.0	20.0	0.0	20.0	60.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	
	全く貢献していない	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

RQ:採用活動のやり易さは実感されているか(産業Q9×産業Q5)

- 全体の8割以上が肯定的に回答しているが、特に、産学連携の主目的として「新規採用人材の確保」を掲げていた企業・団体は、全回答者が肯定的に回答していた。(「そう思う」が7割、「どちらかといえばそう思う」が3割)

Q9.学校が産学連携に取り組むようになったことで、学校に対する採用活動がやりやすくなったと思いますか。(単一選択式)

	合計	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	不明	平均
合計回答者数	57 100.0	21 36.8	27 47.4	4 7.0	5 8.8	0	3.12
Q5.産学連携 に取り組む最 も大きな目的							
新規採用人材を確保するため	7 100.0	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0	3.71
生徒に、産業界等のニーズに即し たスキルや知識を獲得してもらう	12 100.0	5 41.7	5 41.7	1 8.3	1 8.3	0	3.17
社員のスキルアップや研修の一環 として	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0	-
貴団体の地域における認知度を向 上させるため	4 100.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0	3.00
社会的貢献やCSR(企業の社会的 責任)活動として	16 100.0	7 43.8	5 31.3	2 12.5	2 12.5	0	3.06
学校との共同プロジェクト等を通 じて、新しい技術や製品、サービス	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0	2.50
学校からの依頼に応じたため	8 100.0	1 12.5	7 87.5	0 0.0	0 0.0	0	3.13
まだ具体的な目的は明確にでき ていない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0	-
その他	8 100.0	1 12.5	6 75.0	0 0.0	1 12.5	0	2.88

RQ:産学連携の意義や必要性は実感されているか (産業Q11×産業Q5)

- すべての回答者が肯定的に回答しているが、特に、産学連携の主目的として「新規採用人材の確保」を掲げていた企業・団体は、全回答者が「とてもそう思う」と回答していた。

Q.11.あなたは、産業界と学校との連携の意義や必要性をどの程度感じていますか。(単一選択式)

		合計	とても感じている	少し感じている	あまり感じていない	感じていない	不明	平均
合計回答者数		57 100.0	51 89.5	6 10.5	0 0.0	0 0.0	0	3.89
Q5.産学連携に取り組む最も大きな目的	新規採用人材を確保するため	7 100.0	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0	4.00
	生徒に、産業界等のニーズに即したスキルや知識を獲得してもらう	12 100.0	11 91.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0	3.92
	社員のスキルアップや研修の一環として	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0	-
	貴団体の地域における認知度を向上させるため	4 100.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0	3.75
	社会的貢献やCSR(企業の社会的責任)活動として	16 100.0	14 87.5	2 12.5	0 0.0	0 0.0	0	3.88
	学校との共同プロジェクト等を通じて、新しい技術や製品、サービス	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0	4.00
	学校からの依頼に応じたため	8 100.0	6 75.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0	3.75
	まだ具体的な目的は明確にできていない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0	-
	その他	8 100.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0	4.00

付録

付録:質問項目一覧(学校用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	貴校の学校名を教えてください。	記述式	
q2	貴校で産学連携の取組の計画に関わっている方について、当てはまるものをすべて選択してください。	複数選択	教務に関わる分掌の担当者 進路に関わる分掌の担当者 研究に関わる分掌の担当者 渉外に関わる分掌の担当者 産学連携に関わる分掌の担当者 産学連携に関わる教科の担当者 その他()
q3	貴校では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？	単一選択	2022年度以降に実施(現在の学習指導要領のもとで開始、1～2年前から) 1pt 2018年度～2021年度に実施(現行指導要領施行前に開始、3～5年前から) 2pt 2017年度以前に実施(6年以上前から継続して実施) 3pt いつからか不明 NA その他() NA
q4	貴校が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。	単一選択	キャリア教育を充実させるため 実践的な知識や技能を習得する学習を充実させるため 課題解決力を育む学習を充実させるため 協働的な学びを充実させるため 入学希望が増えるよう、学校の魅力を高めるため 地域社会が求める人材を育成するため その他()
q5	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。	複数選択	産業界と連携した教育カリキュラムの検討 学校と産業界のビジョン(育てたい生徒像や身につけたい力等)の協議 産業界と連携して行う通年授業の実施 産業界と連携したプロジェクト型・課題探究型学習の実施 産業界と連携した共同研究の実施 インターンシップ・職場体験・現場実習の実施 産業界から提供・貸与された設備や教材等の活用 産業界による資格・技能検定取得の支援 産業界による進路相談の支援 産業界と連携した発表会・イベントの実施 産業界による出前授業・講演の実施(年に1～数回程度) その他()

付録:質問項目一覧(学校用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q6	今年度実施した産学連携に関わっている企業や団体等の数を教えてください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。	単一選択	1つの組織のみ 1pt 2～5つの組織 2pt 6つ以上の組織 3pt
q7	今年度の産学連携に関わった企業や団体等の種類を全て選択してください。	複数選択	民間企業/協同組合(農業協同組合や漁業共同組合等)/産業団体(商工会、産業連合会等)/教育機関・研究機関/社会教育施設/非営利法人/個人事業主/その他()
q8	連携している企業・団体等について、当てはまるものを全て選択して下さい。	複数選択	学校近辺に本社や本部がある地元の企業や団体等 本社や本部は遠方にあるが、支社・営業所・工場・事務所などが学校近辺にある企業や団体等 学校近辺に拠点がない企業や団体等
q9	企業や団体等とどのような形で連携していますか？あてはまるものを全て選択してください。	複数選択	個々の企業や団体等と個別に連携している 商工会や農協などの産業団体を通じて、複数の企業や団体等と連携している 学校運営協議会や産学連携協議会に企業や団体等が参画している 学校と企業や団体等でコンソーシアムを構築している その他()
q10	産学連携の活動が、貴校の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？	単一選択	非常に貢献している 4pt ある程度貢献している 3pt あまり貢献していない 2pt 全く貢献していない 1pt
q11	産学連携の取組を通じて、貴校として実感しているメリットを教えてください。	複数選択	生徒のキャリア意識が高まった 生徒の学習意欲が高まった 生徒が自分で考え、工夫するようになる傾向が見られた 生徒が協働して物事を進めるようになった 学校の魅力が高まった 地域社会や産業界との関係が深まった 教員が自身の研鑽に積極的に取り組むようになった 教員が産業界との連携に主体的に取り組むようになった 特にな 分らない その他()
q12	産学連携の取組は、主にどの組織が中心となって検討を進めていますか。	単一選択	学校が主体となって検討している 企業や団体等が主体となって検討している 自治体が主体となって検討している 学校と企業・団体等が対等な立場で検討している 学校や企業・団体等が参加する組織(コンソーシアム、協議会、委員会等)で検討している

付録:質問項目一覧(学校用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q13	産学連携において、貴学科が抱えている課題があれば教えてください。	複数選択	取組に必要な予算や資金が不足している。 取組が表面的で、十分に深められない。 中長期的なビジョンがない。 産業界の目的や方向性が学校と合わない。 担当者の負担が増えている。 教職員の理解が得られない。 生徒が意欲的でない。 産業界との関係が深まらない。 産学連携の成果が見えない。 特に課題はない。 その他()
q14	学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか	単一選択	・教育課程の一環として基礎自治体との連携を組み込むなど、継続的に実施している。 3pt ・年に数回の出前授業やイベント等、単発的な取組を実施している。 2pt ・実施していない。 1pt
q15	学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(寮の整備など場所の提供も含む)等を受けていますか。	単一選択	・受けている。 2pt ・受けていない。 1pt
q13	産学連携において、貴学科が抱えている課題があれば教えてください。	複数選択	取組に必要な予算や資金が不足している。 取組が表面的で、十分に深められない。 中長期的なビジョンがない。 産業界の目的や方向性が学校と合わない。 担当者の負担が増えている。 教職員の理解が得られない。 生徒が意欲的でない。 産業界との関係が深まらない。 産学連携の成果が見えない。 特に課題はない。 その他()
q14	学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか	単一選択	・教育課程の一環として基礎自治体との連携を組み込むなど、継続的に実施している。 3pt ・年に数回の出前授業やイベント等、単発的な取組を実施している。 2pt ・実施していない。 1pt

JCHIDA

68

付録:質問項目一覧(生徒用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	学校名をお答えください。	記述式	
q2	所属している学科をお答えください	記述式	
q3	学年を選んでください。	単一選択	1年生/2年生/3年生 1pt~3pt
q4	今年度、学校での授業や実習の中で、企業や地域の人が講義をしたり、手伝ったりしたことは、どれぐらいありましたか。	単一選択	一度もない/月1回未満/月1回から週1回の間/週1回以上 1pt~4pt
q5	今年度、学校行事やイベント(授業や実習以外)で、企業や地域の人が話をしたり一緒に活動したりしたことは、どれぐらいありましたか。	単一選択	
q6	今年度、企業や地域の人に関わっている課題研究やグループワークに参加した経験はありますか。	単一選択	参加したことがある/参加したことはない 2pt~1pt
q7	今年度、企業や地域の施設を訪問する活動(見学やインターンシップなど)に参加した経験はありますか。	単一選択	

付録:質問項目一覧(生徒用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q8	あなたの考えについて、授業で学んでいる知識や技術について、もっと知りたいと思う。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q9	最もあてはまるものを一つ選んで下さい。	単一選択	
q10	仕事や社会の中で使われている知識や技術について、理解していると思う。	単一選択	
q11	仕事や社会で使われている知識や技術を、普段の生活の中で役立てたいと思う。	単一選択	
q12	仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業がなぜ大切か分かった。	単一選択	
q13	企業や地域の人から学ぶことは、将来の進路を考えるのに役立つと思う。	単一選択	
q14	地域の企業や産業について、進路を考えるための情報を十分に知ることができた。	単一選択	
q15	地元の企業に就職したいと思う(進学する場合は卒業後に)。	単一選択	
q16	地元の発展に貢献したいと思う。	単一選択	
q17	将来の目標を考え、それを実現するために努力している。	単一選択	
	将来に対して希望を持っている。	単一選択	

付録:質問項目一覧(生徒用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q18	あなた自身のことについて、最もあてはまるものを一つ選んで下さい。	やるべきことに対して、積極的に取り組むことができる。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q19		目標を達成するために、周りの人の力を借りながら取り組むことができる。	単一選択	
q20		失敗を恐れず、行動に移すことができる。	単一選択	
q21		目標を達成するために、解決すべき問題を見つけることができる。	単一選択	
q22		何かの課題に取り組むとき、必要な手順について優先順位を決められる。	単一選択	
q23		何かの課題に取り組むとき、解決策の選択肢をいくつか挙げて検討することができる。	単一選択	
q24		話し相手に対して、自分の意見を分かりやすく伝えることができる。	単一選択	
q25		話し相手の意見や主張を正確に聞き取ることができる。	単一選択	
q26		相手の立場や意見を尊重することができる。	単一選択	
q27		グループで活動するとき、何をすればよいか、自分の役割を理解できる。	単一選択	
q28		集団や社会生活の規則やルールを守ることができる。	単一選択	
q29		困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組もうとすることができる。	単一選択	
q30		企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等について、どのように感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)	記述式(任意)	

付録:質問項目一覧(教員用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	学校名を教えてください	記述式	
q2	あなたの職名を教えてください。	単一選択	校長・副校長・教頭・主幹教諭・指導教諭・教諭・講師・実習助手・その他
q3	あなたが授業を担当している学科(大学科)を教えてください。	複数選択	農業科/工業科/商業科/水産科/家庭科/看護科/情報科/福祉科/授業を担当していない/その他
q4	学校が産学連携に取り組む必要性を、あなたは十分に理解していると思いますか。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q5	産学連携の取組が、学校の目標に合っていると思いますか。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt

付録:質問項目一覧(教員用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q6	生徒の状況について、あなたの考えに当てはまるものを選んでください。	生徒は、課題に対して粘り強く考えることができる。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q7		生徒は、課題に対して他者と協力することができる。	単一選択	
q8		生徒は、自分の意見や考えを分かりやすく伝えることができる。	単一選択	
q9		生徒は、授業で学んでいる知識や技術に興味を持っている。	単一選択	
q10		生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術について理解している。	単一選択	
q11		生徒は、普段の生活の中で、仕事や社会で使われている知識や技術を役立てたいと思っている。	単一選択	
q12		生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業の大切さを理解している。	単一選択	
q13		生徒は、企業や地域の人から学ぶことが、将来の進路を考えるのに役立つと思っている。	単一選択	
q14		生徒は、地域の企業や産業について、進路を考えるための十分な情報を得ている。	単一選択	
q15		生徒は、地元の企業への就職(進学する場合は卒業後に)について前向きに考えている。	単一選択	
q16		生徒は、地元への貢献意識が高い傾向にある。	単一選択	
q17		生徒には、地域の課題に直接触れる機会がある。	単一選択	
q18	あなたのことについて、当てはまるものを選んでください。	地域の産業や企業について理解している。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q19		生徒の関心に合った学習の機会を提供できている。	単一選択	

付録:質問項目一覧(教員用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q20		今年度、マイスター・ハイスクール事業にどのように関わっていますか？ あなたの関わり方について教えてください。	単一選択	管理職として、マイスター・ハイスクール事業に関わっている。 担当者として、マイスター・ハイスクール事業に関わっている。 担当者ではないが、授業やイベント等の実施を通じて、マイスター・ハイスクール事業に関わっている。 担当者ではなく、マイスター・ハイスクール事業に関わっていない。 その他()
q21	※分岐 「産学連携の取組への関与の状況」が、「担当者ではなく、マイスター・ハイスクール事業に関わっていない。」の場合は、回答しない 産学連携の取組について、あなたの考えを教えてください。	産業界や地域社会との連携が、学校として目指す生徒像を再考するきっかけになった。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q22		産業界や地域社会との連携により、自身の専門性や指導力が高まった。	単一選択	
q23		産業界や地域社会との連携により、地域を支える産業や職業について、進路指導を行うに十分な理解が深まった。	単一選択	
q24		産業界や地域社会との連携により、授業の指導方法やカリキュラムを改善する必要性を感じた。	単一選択	
q25		生徒に必要な資質や能力について、産業界や地域社会と対話しながら決定するようになった。	単一選択	
q26		産業界や地域社会と連携して、授業や単元の計画を検討するようになった。	単一選択	
q27		産業界や地域社会と協働して取り組んだ学びの評価を共有し、それを基に改善に取り組んだ。	単一選択	
q28		産業界や地域社会との連携により、創造的で効率的な教育活動が展開された。	単一選択	
q29		産業界や地域社会との連携が、学校の魅力向上や教育活動の活性化につながった。	単一選択	
q30		学校内で組織化が図られたことにより、産業界や地域社会との連携に前向きに取り組めた。	単一選択	
q31		相談できる学校外の関係機関やコーディネーターがいることで、産業界や地域社会と連携しやすくなった。	単一選択	

付録:質問項目一覧(教員用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q32	※分岐 「産学連携の取組への関与の状況」が、「管理職として、マイスター・ハイスクール事業に関わっている。」の場合のみ回答	管理職として、産学連携において、担当者が産業界に自由に意見を述べたり、活動したりできる環境を整えることを心がけた。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない/管理職としてマイスター・ハイスクール事業に関わっていない 4pt~1pt, NA
q33	※分岐 「産学連携の取組への関与の状況」が、「担当者として、マイスター・ハイスクール事業に関わっている。」の場合のみ回答	事業担当者として、産学連携において、産業界側の担当者に対して自由に意見を述べたり、活動したりできた。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない/事業担当者としてマイスター・ハイスクール事業に関わっていない 4pt~1pt, NA

付録:質問項目一覧(産業界用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	貴団体名を教えてください。	記述式	
q2	このアンケートに回答している方の職務を教えてください。当てはまるものを選択してください。	複数選択	事業の実施担当者 産学連携の取組に関して意思決定を行う立場(経営層・管理職など) その他()
q3	貴団体が連携している高等学校の名称を教えてください。	記述式	
q4	貴団体では、いつから産学連携の取組を実施していますか？	単一選択	2022年度以降に実施(1～2年前から) 1pt 2018年度～2021年度に実施(3～5年前から) 2pt 2017年度以前に実施(6年以上前から継続して実施) 3pt いつからか不明 NA その他() NA
q5	貴団体が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。	単一選択	新規採用人材を確保するため 生徒に、産業界等のニーズに即したスキルや知識を獲得してもらうため 社員のスキルアップや研修の一環として 貴団体の地域における認知度を向上させるため 社会的貢献やCSR(企業の社会的責任)活動として 学校との共同プロジェクト等を通じて、新しい技術や製品、サービスの開発を促進するため 学校からの依頼に応じたため まだ具体的な目的は明確にできていない その他()
q6	前の質問で選んだ目的について、どのくらい重要だと考えていますか。	単一選択	貴団体としての最重要課題である 4pt 確実に取り組むべき重要な課題である 3pt 優先度は高くないが、取り組むべき課題である 2pt 取り組む必要性は低い課題である 1pt
q7	産学連携の活動が、貴団体の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか。	単一選択	非常に貢献している 4pt ある程度貢献している 3pt あまり貢献していない 2pt 全く貢献していない 1pt

付録:質問項目一覧(産業界用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q8	産学連携の取組を通じて、貴団体として実感しているメリットを全て選択してください。	複数選択	充実した人材募集活動ができた 産業界等のニーズに沿ったスキルや知識を持った人材が育成できた 社員のスキルアップにつながった 貴団体の認知度が向上した 社会的責任を果たせた 新しい技術や製品、サービスの開発を促進できた 他の企業等との関係が深まった 貴団体の研究開発プロジェクトが推進できた 地域産業の発展に寄与できた まだ実感できていない その他()
q9	学校が産学連携に取り組むようになったことで、学校に対する採用活動がやりやすくなったと思いますか。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q10	今後も産学連携の取組を続けたいと考えていますか。	単一選択	必ず続けたい できれば続けたい あまり続けたくない 続けたくない 4pt~1pt
q11	あなたは、産業界と学校との連携の意義や必要性をどの程度感じていますか。	単一選択	とても感じている/少し感じている/あまり感じていない/感じていない 4pt~1pt
q12	学校教育に関わったことによって、担当者の意識や行動になにか変化はありましたか。当てはまる項目を全て選択してください。	複数選択	学校や生徒に対するイメージが良くなった 地域の関係者とのコミュニケーションが増えた 地域づくりへの関心が高まった 学校や高校生に以前より注目するようになった 企業内の若手社員への接し方が変わった 物事を柔軟に考えられるようになった 当たり前のことを再度見つめ直す機会となった 高校生の発想やアイデアに触れて刺激を受けた 学校の行事やイベントに足を運ぶようになった 人材採用時における高校生へのプレゼン内容が変わった 特にな その他()

付録:質問項目一覧(産業界用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q13		貴団体は、連携している学校と、互いに利益を得られる関係(互恵関係)にあると思いますか？最も当てはまるものを選択してください。	単一選択	学校側に恩恵がある 1pt どちらかといえば学校側に恩恵がある 2pt 互恵関係である 3pt どちらかといえば企業・団体等側に恩恵がある 2pt 企業・団体等側に恩恵がある 1pt
q14	以下の項目について、貴団体の考えに最も当てはまるものを選択してください。	連携している学校の産学連携の目的を十分に理解している	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q15		学校と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている	単一選択	
q16		貴団体としての産学連携の目的が、連携先の学校に十分伝わっている	単一選択	
q17		産学連携の取組内容について、学校に対して積極的に提案している。	単一選択	
q18		現在の取組は、学校と企業・団体の双方の課題を踏まえた内容になっている。	単一選択	
q19		学校と企業・団体の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。	単一選択	
q20		産学連携の取組を進める中で、貴団体が担う役割は適切だと思う。	単一選択	
q21		貴団体の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。	単一選択	
q22		学校側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。	単一選択	

付録:質問項目一覧(自治体用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	貴自治体名を教えてください。	記述式	
q2	貴自治体において、学校の産学連携を主に担当している部署名を教えてください。	記述式	
q3	貴自治体が連携している高等学校の名称を教えてください。	記述式	
q4	貴自治体は、対象の学校と企業などが連携して行う教育活動(産学連携)に、いつから関わっていますか。	単一選択	2022年度以降に実施(1~2年前から) 1pt 2018年度~2021年度に実施(3~5年前から) 2pt 2017年度以前に実施(6年以上前から継続して実施) 3pt いつからか不明 NA その他() NA
q5	貴自治体が産学連携に取り組む最も大きな理由を1つ選択してください。	単一選択	学校を存続させるため 地域産業の活性化のため 産業界が求める人材を育成するため 若者の地元定着を促進するため 地域の社会問題(少子高齢化、人口減少など)の解決に寄与するため 目的はまだ明確にできていない その他()
q6	前の質問で挙げた目的について、どのくらい重要だと考えていますか。	単一選択	貴自治体としての最重要課題である 確実に取り組むべき重要な課題である 優先度は高くないが、取り組むべき課題である 取り組む必要性は低い課題である 4pt~1pt

付録:質問項目一覧(自治体用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q7	産学連携の活動が、貴自治体の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？	単一選択	非常に貢献している ある程度貢献している あまり貢献していない 全く貢献していない 4pt~1pt
q8	産学連携の取組を通じて、貴自治体として実感しているメリットを教えてください。	複数選択	学校の魅力が高まった 地域産業の活性化に寄与できた 産業界が求める人材が育成できた 若者の地元定着の促進に寄与できた 地域の社会問題(少子高齢化、人口減少など)に寄与できた まだ実感できていない その他()
q9	今後も産学連携の取組を続けたいと考えていますか。	単一選択	必ず続けたい できれば続けたい あまり続けたくない 続けたくない 4pt~1pt
q10	あなたは、産業界と学校との連携の意義や必要性をどの程度感じていますか。	単一選択	とても感じている/少し感じている/あまり感じていない/感じていない 4pt~1pt
q11	学校の産学連携を支援した結果、貴自治体の首長や議会等において、産学連携への理解は高まりましたか。	単一選択	高まった やや高まった あまり高まっていない 高まっていない 4pt~1pt

付録:質問項目一覧(自治体用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q12	以下の項目について、貴団体の考えに最も当てはまるものを選択してください。	貴自治体としての産学連携の目的が、連携先の学校に十分伝わっている	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q13		学校としての産学連携の目的を十分に理解している	単一選択	
q14		産業界としての産学連携の目的を十分に理解している	単一選択	
q15		学校と産業界が連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている	単一選択	
q16		産学連携の取組内容について、学校に対して積極的に提案している。	単一選択	
q17		現在の取組は、学校・産業界・自治体、それぞれの課題を踏まえた内容になっている。	単一選択	
q18		学校と産業界、自治体の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。	単一選択	
q19		産学連携の取組を進める中で、貴自治体が担う役割は適切だと思う。	単一選択	
q20		貴自治体の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。	単一選択	
q21		学校や産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。	単一選択	